

事業報告書

事業年度

(第56期)

自 平成24年4月1日

至 平成25年3月31日

公益財団法人 実験動物中央研究所

目 次

研究（事業）報告

I. プロジェクト研究（公益目的事業1・2）	1
II. 研究部門	2
A. 実験動物研究部（公益目的事業2）	2
B. マーモセット研究部（公益目的事業2）	2
C. 応用発生学研究部（公益目的事業2）	2
D. バイオメディカル研究部（公益目的事業1）	3
E. 病理病態研究部（公益目的事業1）	3
III. サービス部門	5
A. ICLAS モニタリングセンター（公益目的事業2）	5
B. 試験事業部（公益目的事業2）	6
C. 動物資源管理部（公益目的事業2）	6
IV. 基盤技術研究センター（公益目的事業2）	8
V. その他プログラム（公益目的事業共通）	11
A. 公的普及活動	11
B. コンプライアンス活動	11
C. 神奈川口プロジェクト	11
D. キングスカイフロントまちびらきイベント	11
VI. 発表	12
VII. 学術集会	25
VIII. 共同研究（公的研究費による研究）	27

総務報告

1. 役員に関する事項	34
2. 役員会に関する事項	34
3. 委員会活動	36
4. 海外出張	37
5. 教育・研修の受託	39
6. 見学・来所（国内・海外からの来訪者）	39
7. 留学（長期研修）	44
8. 許可・認可・承認に関する事項	44
9. 学位取得	44
10. 契約に関する事項	44
11. 寄附金に関する事項	44
12. 主務官庁の指示に関する事項	45
13. 特許権に関する事項	45
14. 叙勲・受賞に関する事項	45
15. 職員数	45
16. その他	45

公益財団法人実験動物中央研究所 維持会員制度

定例会議ならびに学術懇話会	47
維持会員に関する業務	48
公益財団法人実験動物中央研究所 維持会員規約	50
公益財団法人実験動物中央研究所 維持会員名簿	51

公益目的事業 1：実験動物及び関連資材並びに動物実験法に関する研究開発

公益目的事業 2：実験動物の品質統御に関する研究調査

研究(事業)報告

I. プロジェクト研究 (公益目的事業1・2)

1. ヒト化マウスプロジェクト

本プロジェクトは、当研究所で開発した重度免疫不全NOG (NOD/Shi-*scid*, IL-2R γ KO) マウスに遺伝子改変等の手法を用いて改良を進めることでヒト化により適したマウスを作出すること、およびそれらマウスを用いた創薬などへのトランスレーショナル研究を促進できるような動物実験系を開発、提供することが目的である。

昨年度までに継続作製されてきた改良型マウスも、52 系統に達し、その半数以上が頒布可能であり、それらを用いて特徴的な動物実験系の確立を行っている。これらは文科省・基盤研究 S (伊藤) のホームページ (<http://www.ciea.or.jp/kiban-s/>) に掲載されている。それに加えて、ヒト肝臓、膵臓および腫瘍を保有するマウスの作製などが精力的に行われている。

- 1) 新たな免疫不全マウスの作製と応用に関する研究
- 2) ヒト免疫保有モデルの作製
- 3) ヒト血液系細胞 *in vivo* モデルの作製
- 4) ヒト肝 *in vivo* モデルの作製
- 5) ヒト膵 *in vivo* モデルの作製
- 6) ヒト腫瘍 *in vivo* モデルの作製

2. 実験動物開発のための新技術プロジェクト

- 1) 新たな遺伝子改変法の開発に関する研究
- 2) 電磁場凍結を用いたほ乳類生体試料の新規保存方法の研究
- 3) 実験動物リソースバンクの構築

3. マーモセットによるヒト疾患モデル研究・開発プロジェクト

- 1) 治療方法開発のためのモデル動物作出
 - (1) 脊髄損傷モデルの作出と治療法の検討
 - (2) 心筋梗塞モデル作出と治療法の検討
 - (3) 脳梗塞モデル作出と機能評価
 - (4) アレルギー疾患モデルの作出
 - (5) 肺高血圧モデルの治療法の検討
- 2) 生殖工学・遺伝子改変動物の開発と研究
- 3) 神経精神疾患の前臨床研究基盤の確立
- 4) 動物の規格化

4. 先端の実験動物研究手法樹立プロジェクト

- 1) 実験動物の分子病理解析プロジェクト
- 2) 実験動物の画像解析プロジェクト
- 3) DNA 多型解析による研究用動物・細胞の遺伝モニタリング

II. 研究部門

A. 実験動物研究部（公益目的事業2）

1. 免疫研究室

改良重度免疫不全 NOG マウスの有用性を検討した。

2. 遺伝子改変研究室

本研究室の研究活動は、実験動物開発の新技术プロジェクトの1) 新たな遺伝子改変法の開発に関する研究である。主たる研究は、新たな遺伝子改変技術の改良、開発およびバイオリソースの提供になる。

3. 実験動物遺伝育種研究室

実中研の兼任研究員であり、当研究室の非常勤室長である浜松医科大学・加藤秀樹によって、コモンマーモセットやWistar:Hanoverラットなどクローズドコロニー動物の遺伝的品質管理に関する学術的サポートを行った。さらに、マーモセットの飼育管理を依頼し、遺伝的多型解析も実施した。

B. マーモセット研究部

マーモセット研究部は①殿町新施設の省力化と作業効率の改善度評価、②各種動物実験や実験補助を通して得た動物実験技術の試験受託が可能となるまでのレベルアップ、③マーモセットの病態の把握と病因解析によるマーモセットの品質改良、④マーモセット生物材料の提供を通じた所外研究者との連携強化や⑤独自の研究課題の確立による今後の試験受託も視野においた研究開発を実施した。

1. 疾患モデル研究室

- 1) マーモセット飼育環境の改良
- 2) コモンマーモセットの実験手技に関する検討
- 3) 動物の品質向上
- 4) 生物材料の提供などのサービスや共同研究の実施
- 5) 神経精神疾患モデルを用いた薬効・治療法評価の実施に関する研究

C. 応用発生学研究部（公益目的事業2）

1. 応用発生生物学研究室

コモンマーモセットの発生・生殖工学研究：マーモセットを用いた発生工学および生殖工学の基礎研究および応用研究として新規遺伝子改変マーモセット作出法の確立を行った。

2. 分子発生学研究室

レンチウイルスベクターを用いて、パーキンソン病モデル、II型糖尿病モデルマーモセット、脳科学に有用な神経特異的テトラサイクリン誘導性遺伝子発現マーモセットなどの作出を行った。

3. 生殖工学研究室

ほ乳類の生殖細胞、培養細胞および組織や臓器の収集・保存・個体復元に関する検討を行った。

- 1) ほ乳類生体試料の新しい保存方法の開発

- 2) 生殖工学基盤技術の開発改良
- 3) 遺伝子組換え動物の作製と系統育成に関する新技術の検討

D. バイオメディカル研究部（公益目的事業 1）

1. 腫瘍資源研究室

免疫不全マウスを用いたヒトがんゼノグラフトモデルを用いた消化器系腫瘍の肝臓転移、造血器系腫瘍の骨転移、脳腫瘍移植実験を実施した。

2. 分子解析研究室

1) Hu-liver mouse の作製

ヒト化マウスプロジェクトの中心のひとつとして、当研究室が既存の遺伝子改変動物作出技術に加え、以下の技術を用いて NOG マウスの改良を行った。これまでに作製したヒト化肝臓マウスを用いて薬物代謝試験を実施した。

2) hu-pancreas mouse の作製

今年度は hu-liver mouse と同様にヒトのすい臓細胞、あるいは膵臓機能を保有させた hu-pancreas mouse の開発を進めた。

3) 遺伝子多型マーカーによる系統、および、個体解析

解析が簡便な一塩基多型（Single Nucleotide Polymorphism: SNP）を近交系マウスの遺伝背景検査として取り入れた。

4) PCR による遺伝子検査法の開発・改良

さまざまな遺伝子操作動物が作られるようになり、飼育、繁殖の過程での遺伝子型検査が必須となっている。これに対応するため各種 PCR 検査法を開発改良した。

- (1) 自然ミュータント動物やトランスジェニック、ノックアウト動物の遺伝子型判定法の確立
- (2) トランスジェニック動物の導入遺伝子数の測定をファウンダーマウスにおける導入遺伝子数の相対比較により行った。

3. ヒト化動物研究室

NOG マウス体内に再建された正常・疾患・がん組織を以下のモデル、手法により解析し、分子代謝学的特性の解明を目指した。

E. 病理病態研究部（公益目的事業 1）

1. 画像解析研究室

本研究室は、小動物用超高磁場磁気共鳴画像装置（以下、MRI）の適正な運用・管理および新たな小動物イメージング法の開発を主な事業とする。平成 24 年度は、これまで同様、「実験動物の画像解析」という新しい分野における基盤を築きつつ、前年度の成果を下記のごとく種々の動物実験に応用した。

- 1) 神経微細構造の定量評価を目的とした形態的画像解析
- 2) 神経病態モデルにおける中枢神経機能障害およびその回復過程のモニタリング

2. 分子形態研究室

プロジェクト研究および共同研究に対応するため、実験動物およびモデル動物における形態学的解析方法の研究を行ってきた。マウス組織およびコモンマーモセット組織の HE 標本による形態学的

に解析後、免疫組織学的システムでの蛋白レベル解析のほか、ES細胞, iPS 細胞など移植した細胞のin vivo評価方法として免疫組織化学染色を中心に施行した。

- 1) 免疫組織化学システム
- 2) In situ Hybridization システム
- 3) 共焦点レーザー顕微鏡システム

Ⅲ. サービス部門

A. ICLAS モニタリングセンター（公益目的事業2）

ICLASモニタリングセンターの目的は、実験動物の微生物・遺伝モニタリングを通して国際的に実験動物の品質の向上および動物福祉に寄与しようとするものである。センターの主たる業務内容は、依頼検査の実施、検査技術の開発・改良ならびに品質管理の重要性の普及である。海外活動として、タイ国立実験動物センターと韓国科学技術院にICLASモニタリングサブセンターがあり、これらサブセンターにモニタリングキットなど標準物質の分与や研修生の受け入れなどを含む支援も行っている。

当センターは、ISO9001:2008:JIS Q9001:2008の認証を受けた検査機関である。

1. 微生物モニタリング

1) 微生物検査の実施

大学等研究機関、製薬企業等あるいは生産業者が維持している動物について微生物モニタリングを計7,194件、48,966検体実施した。

2) モニタリングの普及活動

モニタリングの普及活動としてのモニライザの頒布および標準物質の供給を行った。

3) モニタリング技術の精度管理システムの活用

ICLAS Animal Quality Network が実施している Performance Evaluation Program (PEP) に参加し検査技術の精度管理を行った。また、今期は PEP 事務局への協力として、細菌および血清サンプルを供出した。

4) 感染症検査技術の開発・改良

- a. 新たな抗体検査システムの検討
- b. 検査項目の充実ならびに ELISA や PCR システムの拡充
- c. 電流型 DNA チップによる感染症検査システムの確立
- d. 原因不明疾患からの微生物の分離、解析
- e. 実験動物感染症の病理学的診断サービスの拡充

5) 免疫不全動物における微生物に対する感受性の検討

遺伝子改変を行った免疫不全マウスに致死的な *S. aureus* 感染が引き起こされた症例に関し、病理学的アプローチより解明した。

6) 実験動物の消化管内正常細菌叢モニタリングシステムの確立

昨年度は、Terminal Restriction Fragment Length Polymorphism (T-RFLP)法を用いたマウス消化管内細菌叢モニタリングシステムを確立したので、マウス消化管内細菌叢データに基づいた検査受託サービスを開始した。

7) 広報活動（教育、情報収集）

- a. 微生物モニタリングに関する研修会および講演を行った。
- b. 生産業者や研究機関等から検査用に送付された実験動物の血清を保存した“血清バンク”を継続した。
- c. ICLAS モニタリングセンターのホームページの管理・充実を継続した。

2. 遺伝モニタリング

1) 遺伝的モニタリングや遺伝検査の受託業務

動物生産業者（ブリーダー）、製薬会社および外部研究機関等から検査依頼を受け、計85機関、895検体の遺伝背景検査を実施した。

2) モニタリングの普及活動（研修会・講習会等の開催）

- a. 遺伝モニタリングキットの検査標準物質および染色試薬の頒布：3 研究機関
- b. 教育・啓蒙活動の一環として、実験動物の遺伝的モニタリング検査法に関する質問に対して1 研究機関、染色体検査法に関して2 研究機関に技術指導を行った。

3) 検査技術の開発・改良

- a. 従来の生化学的標識遺伝子および免疫遺伝学的標識遺伝子を用いた遺伝背景検査から SNP (Single Nucleotide Polymorphism、一塩基多型) を利用した、遺伝モニタリング検査への確立を目的に新規検査法について検討を行った。
- b. 近交系マウスおよびラットのマイクロサテライトマーカーについて、整備の充実に努めた。

4) 広報活動

- a. ICLAS モニタリングホームページ等を通じて遺伝モニタリングの普及に努めた。
- b. 第 59 回日本実験動物学会総会へのブース出展を行った。

B. 試験事業部（公益目的事業 2）

1) 受託試験および腫瘍株の品質管理および分与

a. 受託試験

17 件の受託試験を実施した。

b. ヒト腫瘍株の維持、分与、品質管理

既契約に基づく使用権貸与（2 社）は本年度も継続した。単契約に基づく分与を 5 大学に対して行った。

2) 検査技術の開発・背景データの採取

3) 情報収集および広報活動

rash2 マウスを用いた短期発がん性試験について、日本製薬工業協会および関連団体との情報交換を継続するとともに、国内外のユーザーを訪問して、情報提供や技術指導を行った。

C. 動物資源センター（公益目的事業 2）

1. 動物施設管理室

1) モデル動物作製システムの開発改良

- a. ヒト化マウスプロジェクトにおいて作出される改良型 NOG マウスのための繁殖・育成法の検討の一環として、NOG/Jic-Tg(Alb-HSVtk)7-2 (Tk-NOG) の育成を継続した。
- b. マウスの系統育成の一環として、NOD/Shi-scid. IL-2RgKO. hr (以下、NOG-hr) マウスの作製を行い繁殖成績を算出した。
- c. 外部研究機関へのマウスの系統分与ならびに動物実験用個体の供給をおこなった。自然交配および胚移植により作製した SPF グレードのマウスを、大学 18 校 38 系統 8,981 匹、研究所 16 機関 14 系統 3,965 匹、企業 18 社 25 系統 2,050 匹、合計 52 機関 14,996 匹を供給した。無菌動物としてはマウスを大学 10 校 4 系統 140 匹、研究所 3 機関 2 系統 113 匹、

企業4社2系統200匹、合計15機関453匹を供給した。

- d. 新たな環境モニタリングシステムである Aircuity OptiNet System を導入したマウス SPF 飼育室にて部屋内の換気回数を12回/時で固定し、無負荷(マウス未飼育時)と有負荷(マウス飼育時)における温度、湿度、粉塵数、アンモニア濃度等を調査し環境データの収集を開始した。
 - e. 共同利用施設における飼育器材の準備や洗浄・滅菌などの飼育管理に関わる作業効率の向上および一元管理化を進め、所内外における研究支援体制の強化を図った。
- 2) 広報活動・教育研修
- 飼育管理や育種繁殖の教育・研修を通して技術の普及を行った。なお、教育研修の一部は基盤技術研究センターと連携して行われた。

2. 資源開発室

- a. 実験動物の系統維持と個体生産および実験材料の一部を、保存胚を用いた供給システムに置き換えるため、所内で育成しているマウスを対象として38系統、30,062個の胚を保存した。実験材料としては、マウスで8系統、10,083個を保存した。
- b. 所内外へ系統分与や実験用として動物個体を供給するために、マウスは43系統4,238匹の産子を生殖工学技術で作製した。
- c. 所内外からの依頼で16遺伝子のTgマウスの作製と、7遺伝子のキメラマウスの作製を行い、得られた遺伝子改変動物を供給した。
- d. 保存した生殖細胞の情報や依頼者の情報の電子化を推進した。
- e. 顕微操作を簡便に行う事を目的としたセミオートマニピュレーターの開発を継続して生殖工学研究室と共同で行った。
- f. 開発技術の発表や、生殖工学技術の教育・研修を通して技術の普及をおこなった。
- g. スンクスの受精卵採取方法の検討を行い、8細胞期胚を採取して拡張胚盤胞まで体外培養できた。

IV. 基盤技術研究センター（公益目的事業 2）

1. 基盤技術の維持と開発

- 1) 動物実験と飼育技術の開発改良
 - (1) 実験動物としての無菌動物の開発改良
 - (2) 実験動物としてのスunksの開発改良
- 2) 実験動物の飼育環境ならびに飼育機具器材の開発改良
 - (1) 感染実験用ビニールアイソレーターの開発(改良)
 - (2) 実験用ミニブタの微生物クリーニング用ビニールアイソレーターの開発
 - (3) マーモセット用モンキーチェア-の開発

2. 教育研修活動

1) 動物実験・実験動物技術教育

- (1) AET(Animal Experimentation Technologist)セミナー

AET セミナーは、高品質の実験動物の作出や維持のみならず、それらの動物を供試して質の高い動物実験を如何に実施するかを中心に、具体的な実務内容を盛り込んだ「動物実験技術」習得講座である。

[2012年 4月 21日]

- ・高垣善男：動物実験のための科学と技術の教育
- ・斉藤宗雄：適正な実験動物/実験動物の開発改良

[2012年 5月 19日]

- ・鍵山直子：実験動物と動物実験に関わる法令と指針
- ・末水洋志：遺伝子組換え動物の取り扱いに係る法律

[2012年 6月 16日]

- ・伊藤豊志雄：なぜ動物実験が必要か/実験動物の一般生理
- ・日置恭司：育種と繁殖

[2012年 7月 14日]

- ・小倉智幸：実験動物(マウス・ラット)の飼育管理
- ・小倉智幸：無菌動物(マウス・ラット)の飼育管理
- ・今井都泰：実験動物の飼育装置および設備の管理

[2012年 8月 18日]

- ・日置恭司：実験動物(マウス・ラット)の特性と飼育器材
- ・堤 秀樹：実験動物(イヌ・ネコ・ブタ・その他)の特性と飼育器材
- ・堤 秀樹：ブタ(ミニブタ)の取り扱いと実験手技

[2012年 9月 15日]

- ・浦野浩司、町田一彦：実験動物と動物実験の基本操作

[2012年 10月 20日]

- ・浦野浩司、町田一彦：動物実験の基本操作「実技-1」

[2012年 11月 17日]

- ・浦野浩司、町田一彦：動物実験の基本操作「実技-2」

[2012年12月8日]

- ・伊藤豊志雄：実験動物の微生物学的品質管理と異常動物発生時の対応
- ・上迫 努：感染症マウスの微生物的清浄化(微生物クリーニング)
- ・井上貴史：実験動物(マーモセット、他サル類)の特性と飼育器材

[2013年1月19日]

- ・林元 展人：微生物モニタリングの実際
- ・冨澤 政史：遺伝モニタリングの実際

[2013年2月19日]

- ・伊藤 守：遺伝子操作動物作製の基礎と歴史
- ・江藤智生：生殖工学・発生工学-その周辺技術-
- ・末水洋志：ヒト疾患モデル動物

[2013年3月16日]

- ・野村達次：動物実験のめざすところ(ビデオ:2009年3月14日撮影)

(3) その他の教育研修

当研究所の研究活動を効率良く行うために、研究所、各委員会と協力して、下記のような新入所員研修、委員会研修などを行った。

- ・2012年4月9日：3階SPF②エリア施設利用マニュアル読み合せ(動物資源センター)
- ・2012年4月12日：新人研修(動物実験委員会、DNA安全委員会)
- ・2012年4月16日：3階SPF②エリア施設利用マニュアル読み合せ(動物資源センター)
- ・2012年4月18日：ビニールアイソレーター飼育マニュアル読み合せ(動物資源センター)
- ・2012年4月21日～2013年3月16日：動物実験技術習得講座12回(基盤技術研究センター)
- ・2012年4月25日：ビニールアイソレーター飼育マニュアル読み合せ(動物資源センター)
- ・2012年5月31日：3階SPF②エリア施設利用マニュアル読み合せ(動物資源センター)
- ・2012年6月26日：3階3213洗浄室(3215)、AC取り扱い教育訓練(動物資源センター)
- ・2012年7月6日～7日：日本実験動物協会モニタリング技術研修会(ICLAS)
- ・2012年7月23日：3階3213洗浄室、VHP、PR取り扱い教育訓練(動物資源センター)
- ・2012年7月27日：床敷き吸塵ドラフト取り扱い教育訓練(動物資源センター)
- ・2012年8月16日：動物箱詰作業手順の読み合せおよび教育訓練(動物資源センター)
- ・2012年8月28日：3階3213洗浄室、VHP、PR取り扱い教育訓練(動物資源センター)
- ・2012年10月5日：3213ロータリーワッシャー運転に関する教育訓練(動物資源センター)
- ・2012年10月15日：3階SPF②エリア施設利用マニュアル読み合せ(動物資源センター)
- ・2012年10月17日：3213ロータリーワッシャー運転に関する教育訓練(動物資源センター)
- ・2012年10月26日～27日：日本実験動物技術者協会第339回実験動物技術講習会(生殖工学研究室)
- ・2012年12月6日：消防訓練(消防(災害)管理委員会)
- ・2013年3月26日～27日：平成24年度日本実験動物医学会ウエットハンド研修会「1 げっ歯類、ウサギの獣医学的管理」(総務部)
- ・2013年3月29日：3階SPF②エリア施設利用マニュアル読み合せ(動物資源センター)
- ・2013年3月29日：遺伝子組換え動物の取扱いに関する教育訓練「遺伝子組換え生物の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律(カルタヘナ法)」-2004年2月19日

施行-の主旨とその適用範囲を業務担当者及び関係者に説明（遺伝子組換え実験安全委員会）

- 2013年 3月29日：動物の愛護及び管理に関する教育訓練「動物の愛護及び管理に関する法律」-動愛法 2006月6月施行-に基づく「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」-2006年 6月告示-の主旨とその適用範囲を業務担当者及び関係者に説明（動物実験委員会）

V. その他プログラム（公益目的事業共通）

A. 公的普及活動

高品質で均質かつ再現性のある実験動物を開発するとともに、科学的観点からだけでなく、倫理的にも適正な動物実験の普及を図り、もって医療の発展と人々の健康・福祉の向上に貢献するためには、実中研が培ったノウハウを国内外に広く普及させることが不可欠と考えられた。そのため、本年度は公益担当理事が定期刊行物等の執筆や研究発表に力点を置き、国内外を通じて積極的に普及活動を実施した。

B. コンプライアンス活動

所員のコンプライアンスに対する意識高揚と問題発生時の適時・的確な解決のためにコンプライアンス委員会が組織されているが、本年度に関し、行動規範等、本細則で規定された違反行為は報告されていない。

C. 神奈川口プロジェクト

野川研究所に残留していた ICLAS モニタリングセンターは平成 24 年 7 月、分子発生学研究室は平成 24 年 12 月を以って新研究所（殿町）に移転した。これにより全て部署の移転が完了した。それに伴い野川研究所は、平成 25 年 1 月末を以って閉鎖された。

D. キングスカイフロントまちびらき記念イベント

「キングスカイフロント サイエンスフェスティバル」開催

3 月 28 日に、川崎市主催の同イベントが開催された。当研究所も同イベントに参加し、1 階実習室およびレクチャールームにおいて、セミオートマニピレーターを用いた受精卵や試験管内の DNA 観察を一般市民の方々に体験して頂いた。またビニールアイソレーター等の展示も行った。イベントは 1,000 名を越す来場者を得て、盛況の内に終了した。

VI. 発 表

A. 定期刊行物等発表

- 1) Goto K., Yamamoto M., Asahara M., Tamura T., Matsumura M., Hayashimoto N. and Makimura K. : Rapid identification of *Mycoplasma pulmonis* isolated from laboratory mice and rats using matrix-assisted laser desorption ionization time-of-flight mass spectrometry. J Vet Med Sci., 74:1083-6. 2012.
- 2) Hayashimoto N., Morita H., Yasuda M., Ishida T., Kameda S., Takakura A. and Itoh T. : Prevalence of *Bordetella hinzii* in mice in experimental facilities in Japan. Res Vet Sci., 93:624-6. 2012.
- 3) Sugimoto M., Yamamoto M., Mukouyama T., Ono C., Yasuda M., Shimada T., Suzuki T., Kamo N., Shiga C., Hosono H., Itagaki F., Watanabe M. and Ikeda T. : Efficacy of local steroid injection on rat skin lesions induced by extravasation of vesicant anticancer drugs. Jpn J Cancer Chemother. 39:577-82. 2012.
- 4) Denda T, Kamoshida S, Kawamura J, Harada K, Kawai K, Kuwao S. : Optimal Antigen Retrieval for Ethanol-Fixed Cytologic Smears. Cancer Cytopathol. 120 (3), 167-176, 2012.
- 5) Kawai K, Tamura K, Sakata I, Ishida J, Nagata M, Tsukada H, Suemizu H, et al., : A new in vivo model to analyze hepatic metastasis of the human colon cancer cell line HCT116 in NOD/Shi-scid/IL-2R γ manu11 (NOG) mice by 18F-FDG PET/CT. Oncol Rep. 2012.
- 6) Michishita M, Akiyoshi R, Suemizu H, Nakagawa T, Sasaki N, Takemitsu H, Arai T, et al. : Aldehyde dehydrogenase activity in cancer stem cells from canine mammary carcinoma cell lines. Vet J. 193:508-513. 2012.
- 7) Hashimoto H, Eto T, Suemizu H, Ito M. : Application of a New Convenience Gender Sorting Method for Mouse Spermatozoa to Mouse Reproductive Engineering Technology. J Vet Med Sci. 2012.
- 8) Nunomura S, Shimada S, Kametani Y, Yamada Y, Yoshioka M, Suemizu H, Ozawa M, et al. : Double expression of CD34 and CD117 on bone marrow progenitors is a hallmark of the development of functional mast cell of *Callithrix jacchus* (common marmoset). Int Immunol. 24:593-603. 2012.
- 9) Ito R, Katano I, Ida-Tanaka M, Kamisako T, Kawai K, Suemizu H, Aiso S, et al. : Efficient Xenoengraftment in Severe Immunodeficient NOD/Shi-scid IL2R γ manu11 Mice Is Attributed to a Lack of CD11c+B220+CD122+ Cells. J Immunol. 189:4313-4320. 2012.
- 10) Suemizu H. : "Humanized mice" produced by using immunodeficient NOG mice. Nihon Yakurigaku Zasshi. 139:203-206. 2012.
- 11) Yamazaki H, Suemizu H, Shimizu M, Igaya S, Shibata N, Nakamura M, Chowdhury G, et al. : In vivo formation of dihydroxylated and glutathione conjugate metabolites derived from thalidomide and 5-Hydroxythalidomide in humanized TK-NOG mice. Chem Res Toxicol. 25:274-276. 2012.

- 12) Yamazaki H, Chijiwa T, Inoue Y, Abe Y, Suemizu H, Kawai K, Wakui M, et al.: Overexpression of the miR-34 family suppresses invasive growth of malignant melanoma with the wild-type p53 gene. *Exp Ther Med.* 3:793-796. 2012.
- 13) Yan Dong, Seiichiro Kobayashi, Yamin Tian, Manabu Ozawa, Takafumi Hiramoto, Kiyoko Izawa, Yuansong Bai, Yasushi Soda, Erika Sasaki, Toshio Itoh, Yoshiro Maru, Satoshi Takahashi, Kaoru Uchimar, Naoki Oyaizu, Arinobu Tojo, Chieko Kai, Kenzaburo Tani: Leukemogenic Fusion Gene(p190 BCR-ABL) Transduction into Hematopoietic Stam/Progenitor Cells in the Common Marmoset. *Open Journal of Blood Diseases*, 2: 1-10, 2012.
- 14) Ando K, Obayashi S, Nagai Y, Oh-Nishi A, Minamimoto T, Higuchi M, Inoue T, Itoh T, Suhara T.: PET Analysis of Dopaminergic Neurodegeneration in Relation to Immobility in the MPTP-Treated Common Marmoset, a Model for Parkinson's Disease. *PLoS one* 7 e4637, 2012.
- 15) Nagai Y, Minamimoto T, Ando K, Obayashi S, Ito H, Ito N, Suhara T.: Correlation between decreased motor activity and dopaminergic degeneration in the ventrolateral putamen in monkeys receiving repeated MPTP administrations: a positron emission tomography study. *Neuroscience research*, 73:61-67, 2012.
- 16) 安東 潔 霊長類を用いた神経精神疾患の前臨床研究と行動解析 実験医学 新しいステージに入った医科学研究と疾患解明 30(2): 121-127 2012.
- 17) Ito, R., Negishi, N., Irie, N., Matsuo, K., Suzuki, D., Katano, I., Hayakawa, E., Kawai, K., Kamisako, T., Eto, T., et al., Osteosclerosis and inhibition of human hematopoiesis in NOG mice expressing human Delta-like 1 in osteoblasts. *Exp Hematol.* 2012.
- 18) Zhang, Y., Patel, S., Abdelouahab, H., Wittner, M., Willekens, C., Shen, S., Betems, A., Joulin, V., Opolon, P., Bawa, O., Pasquier, F., Ito, M., Fujii, N., Gonin, P., Solary, E., Vainchenker, W., Coppo, P., De Botton, S., and Louache, F.: CXCR4 inhibitors selectively eliminate CXCR4-expressing human acute myeloid leukemia cells in NOG mouse model. *Cell Death Dis* 3:e396, 2012.
- 19) Tamauchi, H., Amoh, Y., Itoh, M., Terashima, M., Masuzawa, M., Habu, S., Katsuoka, K., and Iwabuchi, K.: GATA-3 regulates contact hyperresponsiveness in a murine model of allergic dermatitis. *Immunobiology* 217:446-454, 2012.
- 20) Suzuki, M., Takahashi, T., Katano, I., Ito, R., Ito, M., Harigae, H., Ishii, N., and Sugamura, K.: Induction of human humoral immune responses in a novel HLA-DR-expressing transgenic NOD/Shi-scid/gammanull mouse. *Int Immunol.*, 24:243-252, 2012.
- 21) Sato, K., Misawa, N., Fukuhara, M., Iwami, S., An, D. S., Ito, M., and Koyanagi, Y.: Vpu augments the initial burst phase of HIV-1 propagation and downregulates BST2 and CD4 in humanized mice. *J Virol.* 86:5000-5013, 2012.
- 22) Ito, R., Takahashi, T., Katano, I., and Ito, M.: Current advances in humanized mouse models. *Cell Mol Immunol.* 9:208-214, 2012.
- 23) Ito, R., Negishi, N., Irie, N., Matsuo, K., Suzuki, D., Katano, I., Hayakawa, E., Kawai, K., Kamisako, T., Eto, T., Ogura, T., Hozumi, K., Ando, K., Aiso, S., Tamaoki, N., Habu, S., and Ito, M.: Osteosclerosis and inhibition of human hematopoiesis in NOG mice expressing human Delta-like 1 in osteoblasts. *Exp Hematol.*, 40:953-963 e953, 2012.
- 24) Ito, R., Katano, I., Ida-Tanaka, M., Kamisako, T., Kawai, K., Suemizu, H., Aiso, S., and Ito, M.: Efficient xenograftment in severe immunodeficient NOD/Shi-scid IL2rgammanull mice is attributed to a lack of CD11c+B220+CD122+ cells. *J Immunol.* 189:4313-4320, 2012.
- 25) Hashimoto, H., Eto, T., Suemizu, H., and Ito, M.: Application of a New Convenience Gender Sorting Method for Mouse Spermatozoa to Mouse Reproductive Engineering

- Technology. J Vet Med Sci. 2012.
- 26) Takanashi S., Hara K., Aoki K., Usui Y., Hanui H., Ogihara N., Ishigaki N., Nakamura K., Okamoto M., Kobayashi S., Kato H., Sano K., Nishimura N., Tsutsumi H. Machida K, and Saito N. Carcinogenicity evaluation for the application of carbon nanotubes as biomaterials in rasH2 mice. Scientific Rep. 2: 498. 2012.
- 27) 堤秀樹 : rasH2 マウスを用いた短期発がん性試験の現状と課題, 毒性質問箱第 14 号, p156-157, サイエンティスト社. 2012.
- 28) Nunomura, S., Shimada, S., Kametani, Y., Yamada, Y., Yoshioka, M., Suemizu, H., Ozawa, M., Itoh, T., Kono, A., Suzuki, R., Tani, K., Ando, K., Yagita, H., Ra, C., Habu, S., Satake, M., Sasaki, E. :Double expression of CD34 and CD117 on bone marrow progenitors is a hallmark of the development of functional mast cell of *Callithrix jacchus* (common marmoset). Int Immunol. 24(9):593-603. 2012.
- 29) Imamura, M., Okuno, H., Tomioka, I., Kawamura, Y., Lin, ZY., Nakajima, R., Akamatsu, W., Okano, HJ., Matsuzaki, Y., Sasaki, E., Okano, H. : Derivation of induced pluripotent stem cells by retroviral gene transduction in Mammalian species. Methods Mol Biol. 925:21-48. 2012.
- 30) Okano, H., Hikishima, K., Iriki, A., Sasaki, E. : The common marmoset as a novel animal model system for biomedical and neuroscience research applications. Semin Fetal Neonatal Med. 17(6):336-400, 2012.
- 31) Baba, Y., Satoh, S., Otsu, M., Sasaki, E., Okada, T., Watanabe, S. : In vitro cell subtype-specific transduction of adeno-associated virus in mouse and marmoset retinal explant culture. Biochimie. 94(12):2716-2722. 2012.
- 32) Tomioka, I., Takahashi, A., Shimada, K., Yoshioka, Sasaki, E. : Birth of Common Marmoset (*Callithrix jacchus*) offspring derived from in vitro-matured oocytes in chemically defined medium. Theriogenology, 78(4):1487-1493. 2012.
- 33) Shimada, H., Okada, Y., Ibata, K., Ebise, H., Ota, S., Tomioka, I., Maeda, T., Nomura, H., Kohda, K., Yuzaki, M., Sasaki, E., Nakamura, M., Okano, H. : Efficient derivation of multipotent neural stem/progenitor cells from non-human primate embryonic stem cells. PLoS One. 7(11):49469. 2012.
- 34) 佐々木えりか : 最新疾患モデルと病態解明、創薬応用研究、細胞医薬創製研究の最前線 (最新疾患モデル動物、ヒト化マウス、モデル細胞、ES・iPS細胞を利用した病態解明から創薬まで) 「トランスジェニックマーマモセットの開発と iPS 細胞治療薬前臨床モデル確立への試み」 遺伝子医学 MOOK22 号 (株式会社メディカルドゥ)、2012 年 07 月 25 日発行、52~57.
- 35) Kawai K, Tamura K, Sakata I, Ishida J, Nagata M, Tsukada H, Suemizu H, et al. : A new in vivo model to analyze hepatic metastasis of the human colon cancer cell line HCT116 in NOD/Shi-scid/IL-2Rgamma(null) (NOG) mice by (18)F-FDG PET/CT. Oncol Rep. 29:464-468. 2013.
- 36) Hashimoto H, Eto T, Suemizu H, Ito M. : Application of a new convenience gender sorting method for mouse spermatozoa to mouse reproductive engineering technology. J Vet Med Sci. 75:231-235. 2013.
- 37) Tatsumoto S, Adati N, Tohtoki Y, Sakaki Y, Boroviak T, Habu S, Okano H, et al. : Development and Characterization of cDNA Resources for the Common Marmoset: One

- of the Experimental Primate Models. DNA Res. 2013.
- 38) Fukusumi H, Shofuda T, Kanematsu D, Yamamoto A, Suemizu H, Nakamura M, Yamasaki M, et al. : Feeder-free generation and long-term culture of human induced pluripotent stem cells using pericellular matrix of decidua derived mesenchymal cells. PLoS One 8:e55226. 2013.
 - 39) Yamazaki H, Suemizu H, Murayama N, Utoh M, Shibata N, Nakamura M, Guengerich FP. : In vivo drug interactions of the teratogen thalidomide with midazolam: heterotropic cooperativity of human cytochrome P450 in humanized TK-NOG mice. Chem Res Toxicol. 26:486-489. 2013.
 - 40) Tsukada A, Suemizu H, Murayama N, Takano R, Shimizu M, Nakamura M, Yamazaki H. : Plasma concentrations of melengestrol acetate in humans extrapolated from the pharmacokinetics established in in vivo experiments with rats and chimeric mice with humanized liver and physiologically based pharmacokinetic modeling. Regul Toxicol Pharmacol. 65:316-324. 2013.
 - 41) Nishimura T, Hu Y, Wu M, Pham E, Suemizu H, Elazar M, Liu M, et al., : Using chimeric mice with humanized livers to predict human drug metabolism and a drug-drug interaction. J Pharmacol Exp Ther. 344:388-396. 2013.
 - 42) Saida, S., Watanabe, K. I., Sato-Otsubo, A., Terui, K., Yoshida, K., Okuno, Y., Toki, T., Wang, R., Shiraishi, Y., Miyano, S., Kato, I., Morishima, T., Fujino, H., Umeda, K., Hiramatsu, H., Adachi, S., Ito, E., Ogawa, S., Ito, M., Nakahata, T., and Heike, T. : Clonal selection in xenografted TAM recapitulates the evolutionary process of myeloid leukemia in Down syndrome. Blood, 2013.
 - 43) Hikishima, K., Sawada, K., Murayama, AY., Komaki, Y., Kawai, K., Sato, N., Inoue, T., Itoh, T., Momoshima, S., Iriki, A., Okano, HJ, Sasaki, E., Okano, H. : Atlas of the developing brain of the marmoset monkey constructed using magnetic resonance histology. Neuroscience, 230:102-13. 2013.
 - 44) Kawabe M., Urano K., Suguro M., Numano T., Tsutsumi H., and Furukawa F. : Tumor Promotion of TPA on Ultra Two-stage Skin Carcinogenesis Bioassay using rash2 Mice. Vet. Pathol. (in press).
 - 45) Satake, M., Tatumoto, S., Adati, N., Tohtoki, Y., Sakaki, Y., Boroviak, T., Habu, S., Okano, H., Suemizu, H., Sasaki, E. : Development and Characterization of cDNA Resources for the Common Marmoset, One of Experimental Primate Models. DNA Research (In press).
 - 46) 鍵山直子: 動物実験. シリーズ生命倫理学編集委員会編. シリーズ生命倫理学第 15 巻医学研究. P 235-252. 丸善出版. 2012 年.
 - 47) 鍵山直子: 速報 動物愛護管理法の見直し—自主管理は継続の方向—. LABIO21, 49, 5-7. 2012 年 7 月.
 - 48) 鍵山直子: 改正動物愛護管理法が 2012 年 9 月 5 日に公布—次のアクションプランを考える. LABIO 21, 50, 5-6. 2012 年 10 月.
 - 49) 鍵山直子: FASEB のシンポジウムに参加して. LABIO21, 50, 25. 2012 年 10 月.
 - 50) Hayashimoto N et al. : Current microbiological status of laboratory mice and rats in experimental facilities in Japan. Exp. Anim. 62, 41-48. 2013.

- 51) 鍵山直子, 水島友子: 動物実験研究者必見 動物実験の倫理指針と苦痛度評価. 日薬理誌 141, 141-49. 2013年.

B. 学会等の発表

- 1) 林元展人, 高倉 彰: マウス, ラットにおける微生物汚染の現状 (シンポジウム I 「実験動物感染症の現状」). 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 2) 高倉 彰: ICLAS モニタリングセンターにおける SPF 項目見直しに関する経緯の説明 (シンポジウム VII 「マウス・ラットの SPF 項目見直しへの対応」). 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 3) 高倉 彰, 林元展人: 火の国セミナー「微生物学」. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 4) 有川二郎, 天田貴子, 林元展人, 吉松組子, 安田俊平, 清水健太, 駒 貴明, 五十棲理恵, 高倉 彰: イムノクロマト法によるラットとヒト血清のハンタウイルス抗体迅速検出法の開発. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 5) 石田智子, 林元展人, 亀田周子, 田中 舞, 内田立樹, 小澤 碧, 池 郁生, 許 祐銘, 呉 銘芳, 高倉 彰: マウスノロウイルスとマウスアデノウイルス 2 (K87 株) の抗体検査. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 6) 井上貴史, 保田昌彦, 川井健司, 林元展人, 岡原則夫, 佐々木えりか, 伊藤豊志雄: コモンマーモセットの小腸潰瘍に起因した溶血性貧血. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 7) 植野昌未, 野津量子, 久田貴義, 望月 淳, 高倉 彰: T-RFLP 法を用いたマウス腸内細菌叢モニタリングシステムの構築. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 8) 後藤一雄, 山本美佳智, 浅原美和, 田村 俊, 松村 充, 林元展人, 楨村浩一: イオン化質量分析計 (MALDI-TOF MS) を用いた *Mycoplasma pulmonis* の迅速同定法の確立. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 9) 野津量子, 植野昌未, 高倉 彰: クローンライブラリー法を用いた国内ブリーダー由来実験用マウスの腸内細菌叢検索. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 10) 保田昌彦, 林元展人, 石田智子, 伊藤周子, 森田華子, 内田立樹, 田中 舞, 小澤 碧, 佐藤 梓, 川井健司, 高倉 彰, 伊藤豊志雄: 致死的な神経症状が認められた免疫不全マウスの *Staphylococcus aureus* 感染症. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 11) 山田 梓, 高倉 彰, 林元展人, 池田大志, 内田貴幸, 川村卓也, 橋本道子, 小山公成: γ 線照射量によるげっ歯類用飼料の滅菌効果の比較試験. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 12) 上迫 努, 日置恭司, 伊藤 守, 江藤智生: 「近交系ラットにおける体外受精後の胎子発生について」. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 13) 田中伸明, 上迫 努, 江藤智生: 「セミオート化したマニピュレータを使用した ICSI 操作について」. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 14) 小倉智幸, 西中栄子, 浦野浩司, 堤 秀樹, 水澤卓馬, 何 裕遥, 上迫 努, 江藤智生, 伊藤 守, 日置恭司: 「BALB/cAJic-Rag2^{null} nude マウスの有用性の検討-培養細胞株を用いた免疫不全動物の評価-」. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 15) 江藤智生: ラット複数系統の初期胚のガラス化保存の検討. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 16) 柳美穂, 上迫努, 青砥利裕, 安齋政幸, 金子武人, 後藤元人, 外丸祐介, 滝澤明子, Howard J. Jacob, 川辺敏晃, 常吉梨沙, 東雅志, 倉持隆司, 江藤智生: ラット初期胚を用いた体外培養培地およびガラス化保存溶液の安定供給の検討. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.
- 17) 井上貴史, 保田昌彦, 川井健司, 林元展人, 岡原則夫, 佐々木えりか, 伊藤豊志雄: コモンマーモセットの小腸潰瘍を伴った貧血症例. 第 59 回日本実験動物学会総会, 平成 24 年 5 月 24~26 日, 別府.

- 18) 山崎未来、井上貴史、上岡美智子、澤田賀久、山本藍子、荒木陽香、石淵智子、岡原純子、佐々木えりか、伊藤豊志雄:実験施設におけるコモンマーモセットの傷病発生状況. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 19) 伊田幸、上迫努、江藤智生、佐々木正史、伊藤守:NOGマウス由来ES細胞を用いた遺伝子改変によるNOGマウスの改良. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 20) 高橋武司、鈴木真紀子、片野いくみ、伊藤亮治、伊藤守、菅村和夫、張替秀郎、石井直人:HLA発現NOGマウスを用いたヒト機能的免疫反応の惹起. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 21) 片野いくみ、伊藤亮治、上迫努、小倉智幸、末水洋志、日置恭司、高橋武司、伊藤守:ヒトIL-2遺伝子導入NOGマウスで分化したヒト造血幹細胞由来NK細胞の特性. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 22) 伊藤亮治、片野いくみ、高橋武司、川井健司、上迫努、布村聡、相磯貞和、伊藤守:ヒトIL-3/GM-CSFトランスジェニックNOGマウスにおけるヒトミエロイド系細胞の分化亢進. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 23) 外丸祐介、吉岡みゆき、大中麻子、畠山照彦、神田暁史、西本瞳、野尻智子、島田亜希子、大岩亮、高橋誠司、岡原純子、塩澤誠司、岡野栄之、佐々木えりか:コモンマーモセットにおける体細胞および受精卵クローン胚の発生能. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 24) 岡原則夫、井上貴史、佐々木えりか、伊藤豊志雄:新型ケージを導入した新しいマーモセット飼育施設の紹介. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 25) 井上貴史、保田昌彦、川井健司、林元展人、岡原則夫、佐々木えりか、伊藤豊志雄:コモンマーモセットの小腸潰瘍に起因した溶血性貧血. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 26) 岡原純子、佐々木えりか:マーモセット初期胚における細胞表面抗原の発現. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 27) 高橋武司、山田祐子、佐々木えりか:コモンマーモセットの体外受精における基礎培地の検討. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 28) 山崎未来、井上貴史、上岡美智子、澤田賀久、山本藍子、荒木陽香、石淵智子、岡原純子、佐々木えりか、伊藤豊志雄:実験施設におけるコモンマーモセットの傷病発生状況. 第59回日本実験動物学会総会、平成24年5月24~26日、別府.
- 29) 井上慎一、五十嵐浩司、山中伸弥、岡野栄之、佐々木えりか:エピソーマルベクターを用いた染色体挿入のないコモンマーモセット体細胞由来誘導多能性幹細胞の樹立. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 30) 五十嵐潤、橋本菜名子、井上貴史、佐々木えりか、伊藤豊志雄、福田昇:ヒトTGF- β 1に対する新規遺伝子制御薬PIポリアミドのマーモセットを用いた前臨床試験. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 31) 塩澤誠司、岡原純子、岡野ジェイムス洋尚、佐々木えりか、岡野栄之:コモンマーモセット胚性幹細胞における多能性状態の改変. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 32) 外丸祐介、信清麻子、吉岡みゆき、畠山照彦、神田暁史、西本瞳、野尻智子、佐々木えりか、岡原純子、島田亜樹子、塩澤誠司:コモンマーモセットにおけるクローン胚の発生能. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 33) Noriyuki Kishi, Kenya Sato, Misako Okuno, Hirotaka James Okano, Erika Sasaki, Hideyuki Okano:レット症候群モデルマーモセットの作製と解析. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 34) 後原綾子、岡野栄之、佐々木えりか:コモンマーモセット初期胚における遺伝子発現パターンの変化. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 35) 佐藤健吾、荒木敦、Kris Pendorf、入来篤史、岡野栄之、佐々木えりか、河合純、榊原康文:コモンマーモセットゲノムの再シークエンスと統合ゲノムブラウザの開発. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 36) 山口沙織、丸本朋稔、二井偉暢、河野紘隆、廖紀元、永井陽子、岡田美智代、高橋淳、井上博之、佐々木えりか、岡野慎士、三浦由恵、谷憲三朗:コモンマーモセット人工多能性幹細胞作製時に樹立した胚性癌細胞の解析. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.

- 37) 村山綾子、岡原純子、佐々木えりか、岡野栄之：マーモセット胎仔大脳皮質形成 —外側脳室下帯に存在する basal radial glia の解析. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 38) 日下部 央里絵、今村 公紀、富岡 郁夫、リン ユーチン、中島 龍介、本多 新、磯谷 綾子、岡辺 勝、小倉 淳郎、佐々木 えりか、岡野 栄之：哺乳動物生殖系列における DNA メチル化の系統的多様性. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 39) Zachary Yu-Ching Lin, Masanori Imamura, Takamasa Hirano, Eiji Matsunaga, Miki Taoka, Hiroo Imai, Hirotaka James Okano, Atsushi Iriki, Mikiko C. Siomi, Haruhiko Siomi, Erika Sasaki, Hirohisa Hirai, and Hideyuki Okano：マーモセットにおける精子形成の分子機序の分析と生殖細胞の培養方法の開発. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 40) 高橋司、山田祐子、佐々木えりか：コモンマーモセット体外受精における基礎培地の検討、第2回日本マーモセット研究会大会. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 41) 橋本菜名子、井上貴史、岡原則夫、岡原純子、石割桂、石淵智子、大場清香、澤田賀久、山崎未来、佐々木えりか、伊藤豊志雄：実験動物中央研究におけるコモンマーモセットの麻醉法. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 42) 岡原則夫、井上貴史、佐々木えりか、伊藤豊志雄：新しいケージシステムを導入した実中研マーモセット飼育施設の紹介. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 43) 岡原純子、山田祐子、山崎未来、石割桂、澤田賀久、佐々木えりか：トランスジェニックマーモセットの人工授精の試み. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 44) 山田祐子、岡原純子、石割桂、山崎未来、澤田賀久、佐々木えりか：マーモセット未受精卵採取のためのFSHの保存方法と投与量の検討、第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 45) 佐藤賢哉、大岩亮、島田亜樹子、岸憲幸、岡野ジェイムス洋尚、岡野栄之、佐々木えりか：Zinc-Finger Nucleases (ZFNs) を用いた免疫不全マーモセット作出の試み. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 46) 山崎未来、井上貴史、保田昌彦、石割桂、澤田賀久、大場清香、石淵智子、橋本菜名子、岡原則夫、岡原純子、佐々木えりか、伊藤豊志雄：実験動物中央研究所におけるマーモセットの傷病発生状況. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 47) 周智、井畑啓二、岡原純子、幸田和久、赤松和土、柚崎通介、岡野ジェイムス洋尚、佐々木えりか、岡野栄之：転写因子導入によるコモンマーモセット体細胞の神経細胞へのリプログラミング. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 48) 前田拓志、大岩亮、島田亜樹子、岡原純子、岡原則夫、疋島啓吾、南本敬史、永井裕司、須原哲也、岡野 James 洋尚、佐々木えりか、岡野栄之：パーキンソン病モデルトランスジェニックマーモセットの作出. 第2回日本マーモセット研究会大会、平成25年2月27~28日、東京.
- 49) 猪上貴史、保田昌彦、山崎未来、上岡美智子、橋本菜名子、岡原則夫、川井健司、林元展人、佐々木えりか、伊藤豊志雄：実験動物コモンマーモセットの自然発症疾病の病態解析, 第154回 日本獣医学会学術集会, 2012年9月14日-16日, 盛岡市.
- 50) 石井千晴、中西裕美子、村上慎之介、野津量子、植野昌未、日置恭司、高倉 彰、中東憲治、平山明由、曾我朋義、伊藤 守、野村達次、福田真嗣、富田 勝：食事と加齢が腸内環境に与える影響についてのマルチオミクス解析, 日本農芸化学会2013年度大会, 2013年3月24日-28日, 仙台市.
- 51) 山本優理、中西裕美子、村上慎之介、野津量子、植野昌未、日置恭司、高倉 彰、中東憲治、平山明由、杉本昌弘、曾我朋義、伊藤守、野村達次、福田真嗣、富田 勝：マウス消化管内容物のマルチオミクス解析, 日本農芸化学会2013年度大会, 2013年3月24日-28日, 仙台市)
- 52) 勝呂繭子、河部真弓、沼野琢旬、古川文夫、浦野浩司、堤秀樹：rasH2マウスを用いた超短期皮膚二段階発がん性試験法の検討、第39回日本毒性学会総会, 平成24年7月17-19日、仙台.

- 49) ヒト IL-3/GM-CSF トランスジェニック NOG マウスを用いたヒトアレルギーモデルの確立 伊藤亮治、高橋武司、片野いくみ、川井健司、上迫努、布村聡、羅智靖、相磯貞和、伊藤守 第 62 回日本アレルギー学会秋季学術大会、平成 24 年 11 月 29 日～12 月 1 日、大阪
- 50) Katano, I., Ito R., Takahashi, K. and Ito, M: Characteristics of NK cells developed from hematopoietic stem cell in human interleukin-2 transgenic NOG mice. 第 41 回日本免疫学会総会、平成 12 月 5～7 日、神戸.
- 51) Ito R., Takahashi, K., Katano, I., Kawai, K., Nunomura, S., Ra, C., Kamisako, T., Aiso, S. and Ito, M: Functional maturation of human myeloid cells in NOG transgenic humanized mouse strain expressing human IL-3 and GM-CSF. 第 41 回日本免疫学会総会、平成 12 月 5～7 日、神戸.
- 52) Kametani, Y., Shimada, S., Ooshima, S., Ito, M., Habu S. and Ando, K: Human transitional B cells secrete antigen specific IgM in humanized NOG mice. 第 41 回日本免疫学会総会、平成 12 月 5～7 日、神戸.
- 53) 伊藤守: 「超免疫不全マウスの開発とヒト化マウス」. 第 46 回日本無菌生物ノートバイオロジー学会、平成 13 年 1 月 25～26 日、伊勢原.
- 54) 草川森士、町田一彦、安田智、黒田拓也、澤田留美、伊藤守、堤秀樹、佐藤陽治: 細胞・組織加工製品の製造工程管理法としての NOG マウス造腫瘍性試験系バリデーション、第 12 回日本再生医療学会総会、2013 年 3 月 21-23 日、横浜.
- 55) Ayako Sedohara, Hideyuki Okano and Erika Sasaki: “Expression pattern of early genes during early marmoset development”, Joint Meeting of JSDB 45th & JSCB 64th, 2012. May 28-31, Kobe, Japan.
- 56) Murayama, Ayako Y., Okahara, Junko, Sasaki, Erika and Okano, Hideyuki: “THE CHARACTERIZATION OF BASAL RADIAL GLIA IN THE DEVELOPING MATMOSET BRAIN”, ISSCR 10th Annual Meeting, 2012 Jun 13-16, Yokohama, Japan.
- 57) Shiozawa, Seiji, Zhou, Zhi, Okano, Hiroataka James and Sasaki, Erika, Okano, Hideyuki: “A VERSATILE TRANSGENIC SYSTEM IN COMMON MARMOSET EMBRYONIC STEM CELLS USING RECOMBINASE-MEDIATED CASSETTE EXCHANGE”, ISSCR 10th Annual Meeting, 2012 Jun 13-16, Yokohama, Japan.
- 58) Okahara, Junko and Sasaki, Erika: “EXPRESSION OF CELL-SURFACE ANTIGENS IN MARMOSET EARLY EMBRYOS”, ISSCR 10th Annual Meeting, 2012 Jun 13-16, Yokohama, Japan.
- 59) Shin-ichi Inoue, Noemi Fusaki, Hideyuki Okano, Erika Sasaki: “Generation of Integration-free Induced Pluripotent Stem Cells from Adult Common Marmoset Fibroblast”, ISSCR 10th Annual Meeting, 2012 Jun 13-16, Yokohama, Japan.
- 60) Shimada, Hiroko, Okano, Hideyuki, Nakamura, Masaya, Yuzaki, Michisuke, Kohda, Kazuhisa, Okada, Yohei, Ibata, Keiji, Nomura, Hisahiro, Sasaki, Erika, Tomioka, Ikuo, Ota, Shin-ichi and Ebise, Hayao: “EFFICIENT DERIVATION OF NEURAL STEM CELLS FROM COMMON MARMOSET ES CELLS AND iPS CELLS”, ISSCR 10th Annual Meeting, 2012 Jun 13-16, Yokohama, Japan.
- 61) Sedohara, Ayako, Boroviak, Thorsten, Nichols, Jennifer, Okano, Hideyuki and Sasaki, Erika: “PATTERN OF EARLY GENE EXPRESSION DURING EARLY MARMOSET DEVELOPMENT”, ISSCR 10th Annual Meeting, 2012 Jun 13-16, Yokohama, Japan.
- 62) Yamaguchi, Saori, Marumoto, Tomotoshi, Nii, Takenobu, Kawano, Hiroataka, Liao, Jiyuan, Nagai, Yoko, Okada, Michiyo, Takahashi, Atsushi, Inoue, Hiroyuki, Sasaki, Erika, Okano, Shinji, Miura, Yoshie and Tani, Kenzaburo: “CHARACTERIZATION OF DYSGERMINOMA LIKE TUMORS AROSE IN THE PROCESS OF GENERATING COMMON MARMOSET INDUCED PLURIPOTENT STEM CELLS”, ISSCR 10th Annual

Meeting, 2012 Jun 13-16, Yokohama, Japan.

- 63) Takashi Inoue, Masahiko Yasuda, Miku Yamasaki, Michiko Kamioka, Nanako Hashimoto, Norio Okahara, Nobuhito Hayashimoto, Erika Sasaki and Toshio Itoh: "Spontaneous diseases of common marmosets (*Callithrix jacchus*) in the Central Institute for Experimental Animals", 5th International Symposium on Primate Research, 2012 Aug. 19/-21, Kunming, China.
- 64) Ken-ya Sato, Akiko Shimada, Ryo Oiwa, Hirotaka James Okano, Hideyuki Okano and Erika Sasaki: "Generation of immunodeficient marmosets using Zinc-Finger Nucleases", 5th International Symposium on Primate Research, 2012 Aug. 19/-21, Kunming, China.
- 65) Ayako Sedohara, Thorsten Boroviak, Jennifer Nichols, Hideyuki Okano and Erika Sasaki: "Pattern of early gene expression during early marmoset development", 4th Biennial Symposium on Brain and Mind Research in Asia-Pacific (BMAP2012), 2012 Aug. 29-31, Tokyo, Japan.
- 66) Shin-ichi Inoue, Noemi Fusaki, Hideyuki Okano and Erika Sasaki: "Reprogramming of Adult Marmoset Fibroblast by 4 Factors using Sendai Viral Vectors", 4th Biennial Symposium on Brain and Mind Research in Asia-Pacific (BMAP2012), 2012 Aug. 29-31, Tokyo, Japan.
- 67) Ken-ya Sato, Akiko Shimada, Ryo Oiwa, Hirotaka James Okano, Hideyuki Okano and Erika Sasaki: "Generation of immunodeficient marmosets using Zinc-Finger Nucleases", 4th Biennial Symposium on Brain and Mind Research in Asia-Pacific (BMAP2012), 2012 Aug. 29-31, Tokyo, Japan.
- 68) Takuji Maeda, Ryo Oiwa, Akiko Shimada, Keigo Hikishima, Takafumi Minamimoto, Tetsuya Suhara, Junichi Ushiba, Hirotaka James Okano and Erika Sasaki: "Analysis of Parkinson's disease model Transgenic marmoset", 4th Biennial Symposium on Brain and Mind Research in Asia-Pacific (BMAP2012), 2012 Aug. 29-31, Tokyo, Japan.
- 69) Keigo Hikishima, Kazuhiko Sawada, Ayako Y Murayama, Yuji Komaki, Kenji Kawai, Nanako Sato, Takashi Inoue, Toshio Itoh, Suketaka Momoshima, Hirotaka J Okano, Erika Sasaki and Hideyuki Okano: "A high-resolution MRI study of developing brain in common marmosets", 4th Biennial Symposium on Brain and Mind Research in Asia-Pacific (BMAP2012), 2012 Aug. 29-31, Tokyo, Japan.
- 70) Masanori Imamura, Ikuo Tomioka, Zachary Yu-Ching Lin, Ryusuke Nakajima, Oriie Hikabe, Erika Sasaki and Hideyuki Okano: "Phylogenic diversity of DNA methylation status in mammalian germline", 4th Biennial Symposium on Brain and Mind Research in Asia-Pacific (BMAP2012), 2012 Aug. 29-31, Tokyo, Japan.
- 71) Hiroko Shimada, Yohei Okada, Keiji Ibata, Hayao Ebise, Shin-ichi Ota, Ikuo Tomioka, Toshihiro Nomura, Takuji Maeda, Kazuhisa Kohda, Michisuke Yuzaki, Erika Sasaki, Masaya Nakamura and Hideyuki Okano: "Efficient derivation of Multipotent Neural Stem/Progenitor Cells from Non-human Primate Embryonic Stem Cells", 4th Biennial Symposium on Brain and Mind Research in Asia-Pacific (BMAP2012), 2012 Aug. 29-31, Tokyo, Japan.
- 72) Zhi Zhou, Seiji Shiozawa, Hirotaka James Okano, Ken Nishimura, Manami Ohtaka, Junko Okahara, Mahito Nakanishi, Erika Sasaki and Hideyuki Okano: "Toward the Generation And Analyses of Transgenic Alzheimers Disease Model Marmoset", 4th Biennial Symposium on Brain and Mind Research in Asia-Pacific (BMAP2012), 2012 Aug. 29-31, Tokyo, Japan.
- 73) Hayashimoto N: Usefulness of ICLAS Performance Evaluation Program for

Self-assessment of the Quality of Diagnostic Testing. AFLAS 2012, 2012 Oct. 10-12, Bangkok, Thailand.

- 74) Tomoo Eto. Examination of rat embryo vitrification method suitable for multiple strains. 63rd AALAS National meeting, 2012 Nov. Minneapolis, USA.
- 75) Takashi Inoue, Masahiko Yasuda, Miku Yamasaki, Michiko Kamioka, Nanako Hashimoto, Norio Okahara, Nobuhito Hayashimoto, Erika Sasaki, Toshio Itoh. Spontaneous diseases of common marmosets (*Callithrix jacchus*) in the Central Institute for Experimental Animals. 5th International Symposium on Primate Research "From bench to clinic" NHP models for human complex diseases and stem cell research. 2012 Aug., Kunming, China.
- 76) Mamoru Ito: Development of humanized mice model. 1st Samsung Humanized Mice Workshop, 2012. Apr. 14, Seoul, Korea.
- 77) Mamoru Ito: Immunodeficient mice and humanized mouse models. Symposium VI. The 2012 Spring conference of the Korea Association of Immunologist, 2012 Apr. 12-13, Seoul, Korea.
- 78) Urano K., Kawabe M., Suguro M., Numano T., Yasuda M., Tsutsumi H., and Furukawa F: Sensibility of rash2 and non-Tg Mice in Two-stage Skin Carcinogenicity Study., EUROTOX 2012, June 17-21, 2012, Stockholm, Sweden.
- 79) Tsutsumi H., Urano K., Suguro M., Kawabe M., Numano T. and Furukawa F. Reexamination of Initiation Dose in Ultra-short-term Carcinogenicity Study in rash2 Mice., 52th SOT, May 10-14, 2013, San Antonio, TX, USA.
- 80) Ishii C., Nakanishi Y., Murakami S., Nozu R., Ueno M., Hioki K., Takakura A., Nakahigashi K., Soga T., Ito M., Nomura T., Fukuda S. and Tomita M: Evaluation of the effects of age and diet on the gut ecosystem via multiple omics. International Conference and Exhibition on Probiotics, 2012 Nov. 19-21, San Antonio, USA.
- 81) Kagiya N. The Threat of Extremism to Medical Research: Historical perspectives in Japan. FASEB International Summit. 2012 Jun 11, Bethesda, USA.
- 82) Kagiya N. Scoring system for evaluating potential pain in animals. AFLAS-ICLAS Symposium, 2012 Oct. 11, Bangkok, Thailand.

C. 講義・講演等

- 1) 末水洋志: 「免疫不全マウスを用いたヒト化肝臓モデルの開発」日本毒性病理学会シンポジウム 2013年2月1日, つくば.
- 2) 末水洋志: 「実験動物から動物実験モデルへ～免疫不全マウスの開発・改良によるヒト化マウスモデルの作製～」第24回染色体工学研究センターセミナー 2013年1月23日 鳥取大学.
- 3) 末水洋志: 「生命倫理特論」東京工業大学情報生命博士教育院 2013年2月20日 東京工業大学
- 4) 日置恭司, 末水洋志: 「動物実験を始めるにあたって」東京農業大学動物実験ガイダンス, 2012年7月6日, 2013年3月15日, 東京.
- 5) 齋藤宗雄: 「適正な実験動物とは」ライフサイエンスマッチングフォーラム in かわさき, 2012

年7月19日、川崎。

- 6) 上迫努、何 裕遥：「実験動物の感染症と検査および微生物クリーニング」日本実験動物技術者協会第339回実験動物技術講習会、2012年10月26-27日、川崎。
- 7) 江藤智生：生殖工学と新しい実験動物、麻布大学獣医学部、平成24年7月4日、相模原。
- 8) 江藤智生：生殖工学と新しい実験動物、麻布大学生命・環境科学部、平成24年12月10日、相模原。
- 9) 佐々木えりか：小型霊長類コモンマーモセットを用いたiPS再生医療前臨床研究モデル、第59回日本実験動物学会総会 シンポジウムV「ここまで来たiPS/ES細胞研究—実験動物からヒト臨床へ—」、2012年05月23日・26日、別府市。
- 10) 佐々木えりか：マーモセットの発生工学研究、京都大学霊長研・慶應義塾大学・理研・実中研合同セミナー、2012年08月06日・07日、岡崎市、京都大学霊長類研究所。
- 11) 佐々木えりか：遺伝子改変霊長類 現在の課題と新たな試み、第34回日本生物学的精神医学会、2012年09月28日・30日、神戸市。
- 12) 佐々木えりか：コモンマーモセット モデル動物としての可能性、都医学研セミナー、2012年12月07日、東京。
- 13) 佐々木えりか：iPS細胞で治療が実現するまでの道のり、宮崎大学主催 市民シンポジウム「やさしく学ぶ iPS細胞 ～よくわかる iPS細胞研究の最前線～」、2012年12月15日、宮崎市
- 14) 佐々木えりか：霊長類の遺伝子改変動物モデル作製基盤 その将来、第6回 In vivo 実験医学シンポジウム「再生医療と疾患モデル樹立への新たな挑戦」、2013年02月07日、東京。
- 15) 佐々木えりか：コモンマーモセットの発生工学研究、第2回日本マーモセット研究会大会、2013年02月27日・28日、東京。
- 16) Takashi Inoue. Common marmosets for biomedical researches in Japan. KAFLA-SNUH Marmoset workshop “Research with Small Nonhuman Primate, Marmoset”, 2012 Apl., Seoul. Korea.
- 17) Kiyoshi Ando. Establishment of MPTP-induced parkinson’s disease model in cynomolgus monkeys and common marmosets. Seoul National University Hospital, 2012 Jun, Seoul. Korea.
- 18) Kiyoshi Ando. Parkinson’s disease model in MPTP-treated common marmoset. -In vivo imaging of neural degeneration and behavioral manifestation of Parkinsonism-. Workshop held by Korean Food and Drug Administration, National Institute of Food and Drug Service Korea, 2012 Jun, Seoul. Korea.
- 19) 岡原則夫. 新しいケージシステムを導入した実中研マーモセット飼育施設の紹介. 第16回予防衛生協会セミナー、2012年12月、つくば。
- 20) 伊藤守：北海道大学大学院講義、動物実験倫理特論I、2012年7月6日、札幌。
- 21) 高橋武司：「機能的ヒト免疫反応を惹起できる免疫系ヒト化マウスの作製」平成24年度戦略的

- 研究展開事業「階層・分野を超えて生命の高次機能解明をめざす研究課題」研究課題名「ヒト免疫疾患メカニズム解析研究パイプラインの構築」ワークショップ、2012年9月25日、横浜.
- 22) 伊藤守:東大農学部応用動物科学専攻修士課程冬学期講義「外界と生体のインターアクション」2012年10月19、26日、11月2日、東京.
 - 23) 伊藤守:新潟大学脳研究所・動物慰霊祭記念講演、2012年10月31日、新潟.
 - 24) 伊藤守:バイオインダストリー協会月例会講演、2012年12月18日、東京.
 - 25) 伊藤守:「免疫不全マウスの歴史とヒト化モデルへの新しい展開」第6回インビボ実験医学シンポジウム、2013年2月7日、東京.
 - 26) 堤秀樹:医薬品開発に貢献した疾病モデル: rash2 マウス (第59回日本実験動物学会総会シンポジウムVI、5月26日、大分.
 - 27) 堤秀樹:日本実験動物技術者協会関東支部 ブタ技術講習会講演、6月8日、慶應義塾大学医学部実験動物施設、信濃町、東京.
 - 28) 堤秀樹:ブタ(ミニブタ)の取り扱いを容易にするための工夫, NIAS シンポジウム, コンベンションホール、2012年12月10日、東京.
 - 29) 高倉 彰:国立大学実験動物施設協議会総会「ICLAS モニタリングセンター検査項目の見直し」2012年5月10日、秋田市.
 - 30) 高倉 彰:慶應義塾大学医学部大学院特別講義、2012年5月31日、東京.
 - 31) 高倉 彰:(公社)日本実験動物協会「日常の管理」2012年6月16日、東京.
 - 32) 高倉 彰:日本実験動物技術者協会北海道支部総会「最近の微生物汚染状況と ICLAS モニタリングセンター検査項目の見直し」2012年6月30日、札幌市.
 - 33) 林元展人、石田智子、保田昌彦、亀田周子、森田華子、高倉彰:(公社)日本実験動物協会「感染症予防・診断講習会」、2012年7月6日~7日、川崎.
 - 34) 高倉 彰:(公社)日本実験動物協会「高度技術者研修会」2012年9月12日、白河.
 - 35) 林元展人、亀田周子:東京大学農学研究科講義および実習 2012年10月、東京.
 - 36) 林元展人、石田智子、保田昌彦、亀田周子、森田華子、高倉彰:「実技協関東支部講習会」2012年10月26日~27日、川崎.
 - 37) 林元展人:麻布大学獣医学部特別講義、2013年1月、相模原.
 - 38) 鍵山直子:動物実験に関する新法制定の可能性と動連協の役割に関する考察. 日動協セミナーフォーラム、2013年2月23日(東京)、3月16日(京都).
 - 39) 鍵山直子:実験動物と動物実験に関する法令と指針. AET セミナー、2012年5月19日、川崎.
 - 40) 鍵山直子:動物愛護管理法の来し方・行く末. 筑波実験動物研究会、2012年6月15日、筑波.
 - 41) 鍵山直子:動物実験倫理特論—法令の運用と倫理上の課題. 北大獣医大学院講義、2012年7月

6日,札幌.

- 42) 鍵山直子:実験動物を巡る法規制の現状. 理研 CDB 動物実験責任者研修会, 2012年7月20日, 神戸.
- 43) 鍵山直子:動物愛護管理法における実験動物の立ち位置. 実中研維持会, 2012年7月23日, 東京.
- 44) 鍵山直子:実験動物の健康管理と適正な動物実験. 鎌倉女子大, 2012年9月20日, 鎌倉.
- 45) 鍵山直子:動物実験は医学の糧か勝手か. 自治医大, 2012年9月28日, 宇都宮.
- 46) 鍵山直子:みんなの感染症コントロール. 理研 CDB 定期研修会, 2012年10月18日, 神戸.
- 47) 鍵山直子:実験動物管理を巡る規制の動向—改正動物愛護管理法について(報告). NBR 公開シンポジウム, 2012年11月9日, 東京.
- 48) 鍵山直子:実験動物を巡る法的枠組と自主管理. 理研 CDB 実験従事者研修会, 2012年11月15日, 神戸.
- 49) 鍵山直子:動物実験の枠組規制と法規制—世論形成に向けて. 阪大医学部動物実験施設セミナー, 2013年3月15日, 大阪.
- 50) 野村龍太:国際戦略拠点キングスカイフロントにおける実中研の取組み. 国際戦略拠点キングスカイフロント発のライフイノベーション, 2012年4月25日27日, 東京
- 51) 野村龍太:世界の子供たちを救う実中研の貢献. WEEKLY REPORT ROTARY OF KAWASAKI 例会 3024, 2012年10月18日, 川崎.
- 52) 野村龍太:日本の競争力向上の為の実中研の取組み. 未来バイオ研究会, 2012年12月18日, 東京.
- 53) Erika Sasaki: “Future prospects for utilizing transgenic marmoset as the human disease model”, Joint Spring Meeting of the British Society for Cell Biology (BSCB), the British Society for Developmental Biology (BSDB) and the Japanese Society of Developmental Biologists (JSDB), 2012 Apr. 15-18, Coventry, UK.
- 54) Erika Sasaki: “Transgenic non-human primate; a novel approach towards human disease models”, WTCSCR Open Seminar, Wellcome Trust Centre for Stem Cell Research, 2012 Apr. 19, University of Cambridge, UK.
- 55) Erika Sasaki: “Transgenic marmoset; new model for biomedical science”, 6th Graduate School Meeting; ‘Cell Dynamics and Disease’, 2012 May 02-04, Munster, Germany.
- 56) Erika Sasaki: “Attempt to Produce Newly Developed Transgenic Non-human Primate”, 5th International Symposium on Primate Research, 2012 Aug. 19-21, Kunming, China.

VII. 学術集会

A. 特別セミナー・講演会

- 1) [2012年6月11日] CIEA 公開セミナー “Leading-edge Stem Cell Research”
 - ① Thorsten Boroviak (Wellcome Trust Centre for Stem Cell Research, Univ. of Cambridge, UK): Naive ground state pluripotency in primates.
 - ② Anastasia Wiedemann (Hannover Medical School, Germany): iPS cells of the non-human primate *Callithrix jacchus* with mouse-like morphology display full plasticity.
 - ③ Olena Pogozhykh (Hannover Medical School, Germany): Placental derived mesenchymal Stem cells of the common marmoset monkey - immunoprivileged ambassadors for reprogramming?
 - ④ Kei Miyamoto (Wellcome Trust/Cancer Research UK Gurdon Institute, Univ. of Cambridge, UK): Mechanisms of nuclear reprogramming by eggs and oocytes.
- 2) [2013年3月18日] CIEA 公開セミナー
 - ① Pierre Savatier (Stem Cell and Brain Research Institute, France): The quest for naive pluripotency in Human and rabbits.

B. 第6回 In vivo 実験医学シンポジウム「再生医療と疾患モデル樹立への新たな挑戦」

実中研設立60周年にちなんで、前半は実験動物作製の過去・現在・未来を俯瞰した内容、後半はそれら実験動物を用いた再生医療分野での臨床応用につながる最新の情報を紹介。前半の座長を順天堂大学の垣生園子先生、後半を慶應義塾大学の岡野栄之先生にお願いした。

キャンパス・イノベーションセンター東京（東京都港区、J R 田町駅前）で開催、約140名の参加を得て会場は満席、盛況だった。

C. 所内研究発表会

- 1) [2012年7月20日]（実験動物研究部 遺伝子改変研究室・免疫研究室）
 1. 伊田 幸：NOG マウス由来 ES 細胞を用いた遺伝子改変による NOG マウスの改良
 2. 伊藤 亮治：ヒトアレルギーモデルマウスの開発
- 2) [2012年9月14日]（バイオメディカル研究部）
 1. 橋本 晴夫：ヒト化脾臓マウス開発に関する研究ーヒト化肝臓マウスに脾臓（ラ 氏島）を作ってみるー
 2. 樋口 裕一郎：ヒト化肝臓マウスを構築しうる新しい細胞源の探索
- 3) [2012年11月2日]（動物資源管理部・基盤技術研究センター）
 1. 江袋 進：基盤技術研究センターの活動報告
 2. 上迫 努：セミオートマニピュレータの有用性について
- 4) [2012年11月30日]（ICLAS モニタリングセンター）
 1. 林元 展人：コモンマーモセットの腸管病原性大腸菌感染症
 2. 森田 華子：コモンマーモセット由来 EPEC 簡易検出のための酵素基質培地の応用
- 5) [2012年12月21日]（マーモセット研究部）
 1. 五十嵐 潤、福田 昇（日本大学医学部内科学系総合内科学分野）：皮膚肥厚性癬

痕に対するヒト TGF- β 1 (h. TGF- β 1) を標的とした新規遺伝子制御薬ピロール・イミダゾール (PI) ポリアミドの薬物効果評価試験

2. 井上 貴史：殿町施設におけるマーマセットの疾病発生状況

6) [2013年1月11日] (試験事業部)

1. 久保田 玲子：受託事業における信頼性の基準—信頼性保証および資料保管責任者—

7) [2013年3月12日] (病理病態研究部)

1. 千々和 剛：悪性黒色腫の転移に関連する研究

8) [2013年3月18日] (応用発生学研究部)：CIEA 公開セミナー

1. Pierre Savatier (Stem Cell and Brain Research Institute, France)：The quest for naïve pluripotency in Human and rabbits

VIII. 共同研究（公的研究費による研究）

1. 実験動物の品質管理等に係る基礎的研究

[文部科学省 - 科学研究費補助金 特定奨励費]

実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 26 年 3 月

総括及び研究調整

研究責任者 野村 達次

1) 分担課題 遺伝的モニタリングに関する研究

研究責任者 高倉 彰

2) 分担課題 微生物モニタリングに関する研究

研究責任者 林元 展人

3) 分担課題 規格化実験動物系統の確立と維持に関する研究

研究責任者 小倉 智幸

4) 分担課題 実験動物の保存と作製に関する研究

研究責任者 江藤 智生

5) 分担課題 遺伝子改変動物に関する研究

研究責任者 末水 洋志

2. ヒト化動物を用いた次世代型がん領域創薬の開発・検証システムの確立に関する研究

[独立行政法人新エネルギー産業技術総合研究開発機構（NEDO）業務委託費]

実施期間 自平成 24 年度 5 月 8 日 至平成 26 年 2 月 28 日

研究代表者 野村 達次

研究責任者 伊藤 守

3. 再生医療の実現化を目指したヒト iPS 細胞・ES 細胞・体性幹細胞研究拠点

[文部科学省 - 科学技術試験研究委託事業]

実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月

業務主任者 伊藤 豊志雄

4. 先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独創的霊長類モデルの開発と

応用（コモンマーモセットの遺伝子改変技術の基盤整備）

[文部科学省 - 科学技術試験研究委託事業]

実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月

業務主任者 佐々木 えりか

5. iPS 細胞を用いたヒト疾患モデルマウス作製法の確立
〔独立行政法人科学技術振興機構 - 戦略的創造研究推進事業個人型研究（さきがけ）〕
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月
研究担当者 佐々木 えりか

6. 心を生み出す神経基盤の遺伝学的解析の戦略的展開
〔独立行政法人日本学術振興会 - 先端研究助成基金助成金
最先端研究開発支援プログラム〕
実施期間 自平成 22 年 3 月 至平成 26 年 3 月
中心研究者 岡野 栄之（慶應義塾大学・医学部）
サブテーマリーダー 佐々木 えりか

7. 健康研究成果の実用化加速のための研究・開発システム関連の隘路解消を支援する
プログラム(iPS 由来再生心筋細胞移植の安全性評価)
〔文部科学省 - 科学技術戦略推進費補助金〕
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月
担当責任者 伊藤 豊志雄

8. 新たな牛乳房炎検査システムの開発と乳房炎防除プログラム実践促進モデルの確立
〔独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 - 新たな農林水産政策を推進する
実用技術開発事業委託事業〕
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月
担当領域長 田川 裕一（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所）
担当者 高倉 彰

9. 肝臓キメラマウスを用いたヒト型代謝プロファイルの外挿によるリスク評価手法の開発
〔内閣府食品安全委員会 - 食品健康影響評価技術研究〕
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月
主任研究者 末水 洋志

10. ヒト化 NOG マウスを基盤とした個別医療に対応するヒト型実験システムの開発
〔独立行政法人日本学術振興会 - 科学研究費補助金 基盤研究（S）〕

課題番号 22220007

実施期間 自平成 22 年 4 月 至平成 27 年 3 月

研究代表者 伊藤 守

研究分担者 小柳 義夫 (京都大・ウイルス研究所)
安藤 潔 (東海大・医学部)
亀谷 美恵 (東海大・医学部)

11. 標的遺伝子ノックダウンによる霊長類ヒト疾患モデルの作出

[独立行政法人日本学術振興会 - 科学研究費補助金 基盤研究 (A)]

課題番号 22240053

実施期間 自平成 22 年 4 月 至平成 27 年 3 月

研究代表者 佐々木 えりか

12. ヒト免疫系を有するヒト型抗体産生マウスの開発

[独立行政法人日本学術振興会 - 科学研究費補助金 若手研究 (B)]

課題番号 22700458

実施期間 自平成 22 年 4 月 至平成 25 年 3 月

研究代表者 伊藤 亮治

13. 脊髄損傷メカニズム解明のための functional MRI の開発

[独立行政法人日本学術振興会 - 科学研究費補助金 若手研究 (B)]

課題番号 22791410

実施期間 自平成 22 年 4 月 至平成 25 年 3 月

研究代表者 小牧 裕司

14. ヒト液性免疫反応を惹起できるヒト化マウスの開発

[独立行政法人日本学術振興会 - 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)]

課題番号 23590561

実施期間 自平成 23 年 4 月 至平成 26 年 3 月

研究代表者 高橋 武司

15. ヒト疾患モデルへの応用を目指したコモンマーモセットの腸管病原性大腸菌症の病態解明
〔独立行政法人日本学術振興会 - 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)〕
課題番号 24500499
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 27 年 3 月
研究代表者 林元 展人
16. ヒト化肝臓マウスを用いた糖尿病の新規遺伝子治療法技術の確立
〔独立行政法人日本学術振興会 - 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)〕
課題番号 24500500
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 27 年 3 月
研究代表者 橋本 晴夫
研究分担者 樋口 裕一郎
17. 神経機能回路イメージングの開発
〔独立行政法人日本学術振興会 - 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)〕
課題番号 24591800
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 27 年 3 月
研究代表者 疋島 啓吾
18. 電圧を用いた実験動物の組織・臓器の長期超低温保存の基礎的研究
〔独立行政法人日本学術振興会 - 学術研究助成基金助成金 挑戦的萌芽研究〕
課題番号 23650244
実施期間 自平成 23 年 4 月 至平成 26 年 3 月
研究代表者 江藤 智生
19. 肝再生能力を有するヒト iPS 細胞由来胆管上皮細胞を用いたヒト化肝臓マウスの作製
〔独立行政法人日本学術振興会 - 学術研究助成基金助成金 若手研究 (B)〕
課題番号 24700439
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 26 年 3 月
研究代表者 樋口 裕一郎

20. アパタイトナノキャリアを用いた胃癌のマイクロRNA治療の開発
〔独立行政法人日本学術振興会 - 科学研究費助成事業 基盤研究(B)〕
課題番号 22300169
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月
研究代表者 鈴木 秀和 (慶應義塾大学・医学部)
研究分担者 大西 保行
21. がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動
〔文部科学省 - 科学研究費補助金 新学術領域研究〕
課題番号 221S0001
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月
研究代表者 今井 浩三 (東京大学・医科学研究所)
研究分担者 高倉 彰
22. HTLV-1 感染拡大を阻止するワクチンならびに抗体医薬等の開発基盤の確立
〔厚生労働省 - 科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興再興感染症研究事業〕
課題番号 H23 -新興 - 一般 - 027
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月
研究代表者 田中 勇悦 (琉球大学大学院・医学研究科)
研究分担者 伊藤 守
23. 細胞・組織加工製品の開発環境整備に向けたレギュラトリーサイエンス研究
〔厚生労働省 - 科学研究費補助金 医薬品・医薬機器等レギュラトリーサイエンス
総合研究事業〕
課題番号 H24 -医薬 - 指定 - 027
実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月
研究代表者 佐藤 陽治 (国立医薬品食品衛生研究所・遺伝子細胞医薬部)
研究分担者 堤 秀樹
24. 免疫系を保持した次世代型 B 型肝炎ウイルス感染小動物モデルの開発とその応用
〔厚生労働省 - 科学研究費補助金 B 型肝炎創薬実用化等研究事業〕
課題番号 H24 -B 創 - 肝炎 - 一般 - 015
実施期間 自平成 24 年 6 月 至平成 25 年 3 月

研究代表者 竹原 徹郎 (大阪大学大学院・医学系研究科消化器内科学)
研究分担者 末水 洋志

25. 免疫系を保持した次世代型 B 型肝炎ウイルス感染小動物モデルの開発とその応用
〔厚生労働省 - 科学研究費補助金 B 型肝炎創薬実用化等研究事業〕

課題番号 H24 -B 創 - 肝炎 - 一般 - 015

実施期間 自平成 24 年 6 月 至平成 25 年 3 月

研究代表者 竹原 徹郎 (大阪大学大学院・医学系研究科消化器内科学)
研究分担者 高橋 武司

26. 免疫系を保持した次世代型 B 型肝炎ウイルス感染小動物モデルの開発とその応用
〔厚生労働省 - 科学研究費補助金 B 型肝炎創薬実用化等研究事業〕

課題番号 H24 -B 創 - 肝炎 - 一般 - 015

実施期間 自平成 24 年 6 月 至平成 25 年 3 月

研究代表者 竹原 徹郎 (大阪大学大学院・医学系研究科消化器内科学)
研究分担者 中村 雅登

27. 筋ジストロフィーに対するトランスレーショナル・リサーチ

〔独立行政法人国立精神 - 神経医療研究センター・精神・神経疾患研究開発費〕

課題番号 22-5

実施期間 自平成 24 年 8 月 至平成 25 年 3 月

主任研究者 武田 伸一 (独立行政法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所)
研究分担者 保田 昌彦

28. 成育医療における難治性ウイルス感染症に対する予防・診断・治療法の開発と臨床応用
〔独立行政法人国立成育医療研究センター研究所 - 成育医療研究開発費〕

課題番号 22 指-9

実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 25 年 3 月

研究代表者 藤原 成悦 (独立行政法人国立成育医療研究センター研究所母児感染研究部)
研究分担者 伊藤 守

29. 抗アレルギー薬開発に向けたヒト化モデルマウスの作製

〔財団法人薬学研究奨励財団 - 研究助成金グループ B〕

実施期間 自平成 24 年 4 月 至平成 27 年 3 月
研究代表者 伊藤 亮治

30. ヒトアレルギー反応を起こすヒト化モデルマウスの開発-

[公益財団法人日本アレルギー協会 - 真鍋奨学助成]

実施期間 自平成 24 年 5 月 至平成 26 年 3 月
研究代表者 伊藤 亮治

31. 基準腸内フローラモデルマウスを利用した腸内環境評価法の開発

[独立行政法人科学技術振興機構 - 研究成果展開事業研究成果最適展開支援
プログラムフュージビリティスタディ(FS)ステージ探索タイプ]

課題番号 AS242Z02106P

実施期間 自平成 24 年 11 月 至平成 25 年 10 月
研究代表者 中西 裕美子 (慶應義塾大学・政策メディア研究科)
研究分担者 野津 量子

總務報告

1. 役員に関する事項

理事長	野村 達次	研究所所長、医学博士 ^(注)
専務理事	野村 龍太	研究所副所長
理事	金澤 一郎	前宮内庁長官官房皇室医務主管、国際医療福祉大学大学院長
〃	秦 順一	常磐大学人間科学部教授、医学博士
〃	鍵山 直子	元北海道大学大学院獣医学研究科特任教授 獣医学博士
〃	西村 俊彦	スタンフォード大学、医学博士
監事	大澤 敏男	元川崎北税務署長、税理士
〃	石山安紀夫	みずほ健康保険組合常務理事
評議員	永田 宏	元三井物産株式会社副社長
〃	山本 慧	元万有製薬株式会社常務、医学博士
〃	西村 紀	大阪大学蛋白質研究所招聘教授 神戸大学大学院医学研究科質量分析総合センター副所長
〃	山崎 宣典	首都大学東京（大学院）客員教授 元三菱電機株式会社常務取締役
学術顧問	林 裕造	元国立衛生試験場安全性評価センター長、医学博士
〃	石成 公成	元ジョンズ・ホプキンス大学教授（米国）

(注) 野村達次理事長の逝去に伴い、平成25年3月1日付で野村龍太専務理事が理事長に就任した。

2. 役員会に関する事項

評議員会・理事会

- 平成24年6月11日に定款第39条による書面臨時理事会が開催され、以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：横浜銀行より1.5億円を限度として融資を受ける件

- 平成24年6月18日に役員会議室において第100回定時理事会が開催され、以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：平成23年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）
事業報告書（案）の承認に関する件

第2号議案：平成23年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）
財務諸表（案）の承認に関する件

第3号議案：玉置前学術担当理事役員退職慰労金に関する件

第4号議案：平成24年度提示評議員会開催の件

その他（報告事項）

- 平成24年6月26日に役員会議室において平成24年度定時評議員会が開催され、以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：平成23年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）

事業報告書（案）の承認に関する件

第2号議案：平成23年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）

財務諸表（案）の承認に関する件

第3号議案：玉置前学術担当理事役員退職慰労金に関する件

その他（報告事項）

- 平成24年9月10日に定款39条による書面臨時理事会が開催され、以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：川崎市宮前区野川の南側当財団所有地 2584.11 m²（約781坪）を、榊京浜予防医学研究所売却に関する件

第2号議案：川崎市宮前区野川の北側当財団所有地 4983.37 m²（約1,507坪、払い下げを受ける川崎市市道野川 242千19.06 m²を含む）に加え、日本クレア(株)所有の 808.86 m²（約244坪）、合計 5792.23 m²（約1,752坪）を、ツツイグループに売却する件

- 平成24年10月5日に定款39条による書面臨時理事会が開催され、以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：売掛金に1.5億円を限度に担保を設定する件

- 平成25年1月22日に定款39条による書面臨時理事会が開催され、以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：野村達次理事長死去に伴う、新理事長選任に関する件

第2号議案：野村達次理事長への、弔慰金支給に関する件

- 平成25年3月13日に役員会議室において第101回定時理事会が開催され、以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）
事業計画書（案）の承認に関する件

第2号議案：平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）
収支予算書＝損益計算方式＝（案）の承認に関する件

第3号議案：平成24年度変更予算書（案）の承認に関する件
その他（報告事項）

- 平成25年3月25日に役員会議室において平成24年度後期評議員会が開催され、以下の議案が討議され承認された。

第1号議案：平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）
事業計画書（案）の承認に関する件

第2号議案：平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）
収支予算書＝損益計算方式＝（案）の承認に関する件

第3号議案：平成24年度変更予算書（案）の承認に関する件

3. 委員会活動

・外部評価委員会（アドバイザー・コミティー）

野村達次理事長が1月11日に急逝のため、2月8日に開催を予定していたが、中止とした。

なお、平成24年度の委員は下記の通りである。（五十音順）

- 相澤 慎一（独立行政法人理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター
ボディプラン研究グループ グループディレクター）
- 中西 重忠（財団法人大阪バイオサイエンス研究所 所長）
- 垣生 園子（順天堂大学医学部免疫学講座 客員教授） *委員長
- 林 裕造（NPO 食品保健科学情報交流協議会 会長）
- 半田 宏（東京工業大学大学院生命理工学研究科 教授）
- 御子柴克彦（独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター
発生神経生物研究チーム シニアチームリーダー）
- 山本 直樹（National University Health System, Singapore Professor）

・運営委員会

定款第8条42条1項の規定に基づく平成24年度の運営委員会は、下記の委員で構成された。

- 野村達次 : 理事長
野村龍太 : 専務理事
秦 順一 : 学術担当理事
鍵山直子 : 公益担当理事
伊藤 守 : 研究部門長
高倉 彰 : サービス部門長
前野日出雄 : 経営管理部長

・平成24年度ICLASモニタリングセンター運営検討委員会

以下の日時に開催した。

日時：平成25年4月19日14:30～ 場所：（公財）実験動物中央研究所

（各委員の都合により、25年4月に開催した。）

推進委員：高垣善男先生、森脇和郎先生（欠席）

運営検討委員：（公社）日本実験動物学会 松本清司先生、山田靖子先生
（公社）日本実験動物協会 高木博義先生、日柳政彦先生
日本実験動物協同組合 團迫 勉先生、外尾亮治先生
国立大学法人動物実験施設協議会 伊川正人先生、池 郁生先生
公私立大学動物実験施設協議会 喜多正和先生
日本実験動物技術者協会 小木曾昇先生
日本製薬工業会 久田 茂先生、渡辺秀憲先生

センター員：鍵山以下 18 名

・機関内審査委員会として、下記の 6 委員会が活動した。

- 1) 遺伝子組換え実験安全委員会
- 2) 動物実験委員会
- 3) 放射線管理委員会
- 4) 科学研究費補助金内部監査委員
- 5) 研究倫理委員会
- 6) 生命倫理委員会

その他機関内委員会として、消防委員会、健康管理委員会、所内ネットワーク委員会ならびにコンプライアンス委員会が設置され、活動した。

4. 海外出張

- 1) 久下 壮は、マーモセットiPS細胞作製に関する研修のため、2012年4月1～10日まで英国へ出張
- 2) 岡原 純子は、マーモセットiPS細胞作製に関する研修のため、2012年4月1～10日まで英国へ出張
- 3) 大西 保行は、IACUC出席および打合せのため、2012年4月9～11日までシンガポールへ出張
- 4) 伊藤 守は、シンポジウム講演のため、2012年4月12～15日まで韓国へ出張
- 5) 井上 貴史は、Research with Small Nonhuman Primate, Marmosetにて発表、ソウル大学動物実験施設の視察および意見交換のため2012年4月12～15日まで韓国へ出張
- 6) 佐々木 えりかは、BSCB/BSDB/JSDB-joint Spring Meeting で講演のため、2012年4月14～21日まで英国へ出張
- 7) 佐々木 えりかは、6th Graduate School Meeting; Cell Dynamics and Diseaseにて講演のため、2012年5月1～6日までドイツへ出張
- 8) 林元 展人は、NLAC, Mahidol Universityにて技術指導および共同研究打合せのため、2012年5月9～13日までタイ王国へ出張
- 9) 安東 潔は、National Institute of Food and Drug Safety (NIFDS), Seoul University, Medical Schoolにて招待講演のため、2012年6月13～16日まで韓国へ出張
- 10) 浦野 浩司は、欧州毒性学会での発表およびrasH2マウス販促のための企業訪問のため、2012年6月16～7月1日まで、ドイツ、ベルギーほかへ出張
- 11) 大西 保行は、出向先業務およびNOGマウスの紹介および技術紹介のため、2012年6月21～30日まで出張
- 12) 堤 秀樹は、rasH2マウスおよび短期発がん性試験の現状説明のため、2012年7月4～6日まで、中国へ出張
- 13) 伊藤 守は、Bio FarmaにてPVR Tg マウス飼育施設視察のため、2012年7月10～14日まで、インドネシアへ出張
- 14) 日置 恭司は、Bio FarmaにてPVR Tg マウス飼育施設視察のため、2012年7月10～13日まで、インドネシアへ出張
- 15) 山本 大地は、Bio FarmaにてPVR Tg マウス飼育施設視察のため、2012年7月10～15日まで、インドネシアへ出張
- 16) 林元 展人は、宮崎大学と青海大学とのキノックス研究班の調査のため、2012年8月18～22日まで

中国へ出張

- 17) 伊藤 豊志雄は、2012 KALAS International Symposiumでの講演のため、2012年8月22～25日まで出張
- 18) 伊藤 守は、科学技術振興機構 日本—中国研究交流のため、2012年8月18～22日まで中国へ出張
- 19) 佐藤 賢哉は、5th International Symposium on Primate Research参加のため、2012年8月18～23日まで中国へ出張
- 20) 井上 貴史は、5th International Symposium on Primate Research参加のため、2012年8月18～23日まで中国へ出張
- 21) 林元 展人は、微生物ならびに遺伝検査項目拡充の話合および実技研修のため、2012年9月16～23日まで米国へ出張
- 22) 小牧 裕司は、ESMRMB 2012 Congressにおいて成果報告のため、2012年10月3～8日までポルトガルへ出張
- 23) 林元 展人は、AFLAS 2012セミナー発表のため、2012年10月9～14日までタイへ出張
- 24) 林元 展人は、International Seminar on Technology of Laboratory Animal Healthにて発表のため、2012年10月24～27日まで中国へ出張
- 25) 鍵山 直子は、ICLAS執行役員会、理事会、総会出席のため、2012年10月7～12日までタイ王国へ出張
- 26) 佐々木 えりかは、Society for Neuroscience 42nd Annual Meeting 参加のため、2012年10月12～17日まで米国へ出張
- 27) 日置 恭司は、In-Vivo-Science International Incで、免疫不全マウス飼育室の消毒のため、2012年10月28日～11月4日まで米国へ出張
- 28) 江藤 智生は、63rd AALAS National meeting で演題発表、ラット・マウスの生殖工学技術指導および研究打合せのため、2012年11月1～11日まで、米国へ出張
- 29) 疋島 啓吾は、共同ワークショップへの参加のため、11月10～13日までシンガポールへ出張
- 30) 伊藤 守は、Bio Farma社のPVRマウス飼育施設改修後の検査・検証のため、11月12～16日まで、インドネシアへ出張
- 31) 山本 大地は、Bio Farma社のPVRマウス飼育施設改修後の検査・検証のため、11月12～15日まで、インドネシアへ出張
- 32) 末水 洋志は、NEDO/OSE、オンコデザイン社共同研究開発・実証事業の打合せのため、2012年11月25日～12月2日までフランスへ出張
- 33) 浦野 浩司は、rasH2マウス短期発がん性試験実施のための打合せ及び施設確認のため、2012年12月12～14日まで中国へ出張
- 34) 堤 秀樹は、rasH2マウス短期発がん性試験実施のための打合せ及び施設確認のため、2012年12月12～14日まで中国へ出張
- 35) 小倉 智幸は、JOIN LABORATORIES社にてrasH2マウスを使った受託試験を適正に行うための飼育施設、設備、飼育方法などの確認および打合せのため、2012年12月12～14日まで中華人民共和国へ出張
- 36) 森田 華子は、KRIBBにて情報交換、検査打合せのため、2013年3月14～16日まで韓国へ出張
- 37) 林元 展人は、KRIBBにて情報交換、検査打合せのため、2013年3月14～16日まで韓国へ出張
- 38) 亀田 周子は、KRIBBにて情報交換、検査打合せのため、2013年3月14～16日まで韓国へ出張

39) 堤 秀樹は、SOT 2013にて発表のため、2013年3月9～16日まで米国へ出張

5. 教育・研修の受託

a. 国内

- 1) ㈱明治の小林清志氏は、2012年4月11日～4月13日まで、ICLAS モニタリングセンターにて研修
- 2) 北里大学理学部の小倉大氏は、2011年4月1日～2012年3月31日まで、免疫研究室にて研修
- 3) 大阪大学免疫学フロンティア研究センターの福田有里氏は、2012年7月2日～7月13日まで、動物資源センターにて研修
- 4) ㈱大塚製薬工場鳴門研究所の齋藤直之氏は、2012年7月23日～7月27日まで、ICLAS モニタリングセンターにて研修
- 5) 東京電機大学フロンティア共同研究センターの尾上睦子氏は、2012年6月11日～6月22日まで、動物資源センターにて研修
- 6) 九動㈱の宮坂亮之朗氏は、2012年8月6日～8月10日まで、ICLAS モニタリングセンターにて研修
- 7) 自然科学研究機構生理学研究室の竹田悠太氏は、2012年10月23日～10月26日まで、お湯用発生学研究部およびマーモセット研究部にて研修
- 8) ㈱武田ラビックスの福田詩織氏は、2013年2月20日～2月22日まで、ICLAS モニタリングセンターにて研修
- 9) (独)理化学研究所発生・再生科学総合研究センターの清成寛氏は、2013年2月1日～2月28日まで、動物資源センターおよびICLAS モニタリングセンターにて研修
- 10) 星薬科大学の岩井拓弥氏は、2013年3月15日～3月31日まで、画像解析研究室にて研修

b. 海外

- 1) 台湾大学医学院劉育如氏、林徑多氏、胡同嘉氏は、2012年9月2日～9月22日までICLAS モニタリングセンターにて研修
- 2) 韓国 OSONG Medical Innovation Foundation Laboratory Animal Center の李京宣氏、金鍾萬氏は、2012年11月19日～12月8日までマーモセット研究部にて研修

6. 見学・来所（国内・海外からの来訪者）

a. 国内

- 1) 2012年4月3日 大成建設/吉成本部長他2名が見学
- 2) 2012年4月4日 川崎市臨海部国際戦略室 河合課長他2名が視察
- 3) 2012年4月5日 カールツァイスマイクロコピー(株)葉袋氏が見学
- 4) 2012年4月9日 神奈川県保健福祉局(兼)政策局首藤参事監他9名が見学
- 5) 2012年4月10日 ヤクルト中央研究所 事務部 施設管理課長法夫主事補他6名が見学
- 6) 2012年4月11日 厚生労働省医政局研究開発振興課佐原課長他2名が視察
- 7) 2012年4月13日 神奈川科学技術アカデミー阿部リーダー他5名が見学
- 8) 2012年4月16日 県議会議員20名 他34名が視察

- 9) 2012年4月17日 国交省国交省 都市局 まちづくり推進課5名他9名が視察
- 10) 2012年4月23日 川崎市総合企画局都市経営部金子督部長他4名が視察
- 11) 2012年4月24日 横浜市大場 茂美副市長ら4名が視察
- 12) 2012年4月26日 BS11「未来ビジョン」番組制作パームクリエイティブ社氏ら2名が取材
- 13) 2012年4月27日 川崎市衛生局長、衛生研究所岡部所長ら12名が見学
- 14) 2012年5月2日 日本動物高度医療センター今社長ら2名が見学
- 15) 2012年5月7日 川崎市総務局 行財政改革室担当者ら8名が見学
- 16) 2012年5月8日 川崎市川村部長、横浜銀行、産業振興財団ら6名が見学
- 17) 2012年5月8日 科学雑誌 nature 記者2名が取材のため2名が来所
- 18) 2012年5月8日 サンデー毎日記者1名が取材のため来所
- 19) 2012年5月9日 毎日新聞記者高橋氏他6名が取材のため来所
- 20) 2012年5月9日 寺尾サッシ工業株式会社寺尾社長ら2名が見学
- 21) 2012年5月10日 監査事務局6名が視察
- 22) 2012年5月14日 株式会社カネカ フロンティアバイオ・メディカル研究所所長上田執行役員ら6名が見学
- 23) 2012年5月16日 日本グローバルヘルス協会内藤理事長・川崎市小林室長ら4名が視察
- 24) 2012年5月16日 味の素株式会社ライフサイエンス研究所村松氏ら3名が見学
- 25) 2012年5月16日 川崎市玉井課長、NECソフトら3名が視察
- 26) 2012年5月17日 関東地方整備局建政部、川崎市まちづくり局ら5名が視察
- 27) 2012年5月28日 東レ株式会社医薬研究所長伊関克彦理事ら5名が見学
- 28) 2012年5月29日 上海交通大学曹先生、川崎市一ノ瀬氏ら6名が見学
- 29) 2012年6月4日 国立衛生研究所川西副所長ら12名が見学
- 30) 2012年6月5日 協和発酵キリン株式会社富士リサーチパーク 研究推進部 マネジャー奥村浩氏ら10名が見学
- 31) 2012年6月5日 東洋エンジニアリング永田会長が見学
- 32) 2012年6月6日 ライオン株式会社芹澤氏が見学
- 33) 2012年6月11日 大日本住友製薬株式会社、住友化学生物環境科学研究所 林孝輔氏ら3名が見学
- 34) 2012年6月12日 鹿島建設(株) エンジニアリング本部 施設計画グループ和田課長ら3名が見学
- 35) 2012年6月19日 グローバルフォーラム Harold Weinstein 博士ら20名が見学
- 36) 2012年6月19日 関東財務局 横浜事務事務所輻田所長ら2名が視察
- 37) 2012年6月20日 国立衛生研究所毒性部菅野部長ら4名が見学

- 38) 2012年6月22日 全日本空輸株式会社公務グループ吉原重樹氏、川崎市総合企画局臨海部国際戦略室 担当課長 高橋氏ら5名が見学
- 39) 2012年6月25日 エコノミスト記者が取材のため来所
- 40) 2012年6月27日 SCIVAX 株式会社 奥田 徳路氏ら2名が見学
- 41) 2012年6月28日 三菱総合研究所2012年度自治体等研修生13名が見学
- 42) 2012年6月29日 神奈川県政策局5名が視察
- 43) 2012年7月2日 横浜市都市整備局 青木治整備局長、UR都市再生機構 神奈川地域支社 都市再生業務部、ら12名が視察
- 44) 2012年7月3日 国立衛研来所安全性生物試験研究センター 薬理部関野祐子部長ら8名が視察
- 45) 2012年7月5日 株式会社イトーキ横浜支店長、北田支店長ら3名が見学
- 46) 2012年7月9日 神奈川県政策研究・大学連携センターシンクタンク岸本啓氏ら2名が取材
- 47) 2012年7月10日 大成建設 都市開発本部中丸課長ら4名が見学
- 48) 2012年7月11日 慶應大学動物実験センター下田センター長ら4名が見学
- 49) 2012年7月13日 日本鋼管病院職員ら3名が見学
- 50) 2012年7月17日 内閣官房 国際特区評価委員ら18名が視察
- 51) 2012年7月19日 大成建設医療福祉営業本部堀担当部長、奥野設計ら4名が視察
- 52) 2012年7月19日 川崎市・相模原市・横浜市市街地整備推進課専任職島岡氏ら19名が視察
- 53) 2012年7月23日 齋藤官房副長官ら5名が視察。
- 54) 2012年7月23日 神奈川県議会議員神奈川県菊池保健福祉局長、石村生活衛生部長ら21名が視察
- 55) 2012年7月24日 川崎市立川崎総合科学高等学校 2年生42名が見学
- 56) 2012年7月24日 鹿児島大学隅田教授ら2名が視察
- 57) 2012年7月27日 せきずい基金白井副理事長ら5名が視察
- 58) 2012年7月27日 川崎市大都市環境衛生主管課長ら29名が視察
- 59) 2012年7月31日 クロネコヤマト、川崎市職員ら8名が見学
- 60) 2012年7月31日 彩都大阪谷氏、川崎小林室長ら3が見学
- 61) 2012年8月1日 株式会社カネカ医療器事業部総括GL小池一弘ら2名が見学
- 62) 2012年8月1日 HS財団職員ら10名が見学
- 63) 2012年8月22日 国際戦略拠点形成推進会議委員林良博氏（山階鳥類研究所 所長）らが見学
- 64) 2012年8月13日 東京都都市整備局長、川崎市建設緑政局長ら11名が見学
- 65) 2012年8月17日 京浜メディカルグループ田中専務ら2名が見学

- 66) 2012年8月22日 物産都市開発碓井信博社長ら2名が見学
- 67) 2012年8月27日 関東経産局地域経済部産業技術課産学官連携推進チームの今野順子課長補佐ら2名が見学
- 68) 2012年8月24日 川崎市 総合企画局、都市経営部 企画調整課長ら4名が見学
- 69) 2012年8月28日 川崎殿町・大師河原「地域都市再生緊急整備協議会」委員ら30名が見学
- 70) 2012年9月4日 株式会社カイオムバイオサイエンスから4名が見学
- 71) 2012年9月11日 国立循環器病研究センター沢村達也氏が見学
- 72) 2012年9月19日 UR都市再生機構 理事長 上西 郁夫氏ら9名が見学
- 73) 2012年9月19日 内閣府食品安全委員会事務局2名が視察
- 74) 2012年9月20日 富士フィルム Pharma USA CEO 山田氏他6名が見学
- 75) 2012年9月27日 ドリームインキュベータ江藤氏ら2名が見学
- 76) 2012年10月1日 川崎中央ロータリークラブ、川崎市小林室長ら32名が見学
- 77) 2012年10月2日 経産省産業構造課職員ら3名が見学
- 78) 2012年10月3日 プリズム社から3名が見学
- 79) 2012年10月4日 名古屋市立大学岡田名誉教授ら7名が見学
- 80) 2012年10月4日 国土交通省 土地建設産業局 地価調整課 地価公示室 黒澤氏、川崎市臨海部国際戦略室中上課長ら6名が見学
- 81) 2012年10月5日 IDEXX Laboratories Inc. : Bob Barca、シスメックス株式会社 新事業推進グループ 柴田氏ら4名が見学
- 82) 2012年10月9日 東京新聞川崎市局山本氏が取材のため見学
- 83) 2012年10月9日 専修大学、川崎市 中尾氏ら3名が見学
- 84) 2012年10月10日 三浦副市長ら5名が見学
- 85) 2012年10月15日 経産省稲垣参事官、経産省課長、川崎市玉井氏ら4名が視察
- 86) 2012年10月16日 神奈川新聞 丸山氏が取材のため来所
- 87) 2012年10月16日 東京事務所総務省担当者28名が見学
- 88) 2012年10月18日 富士フィルム戸田常務、神奈川県参与武市氏ら4名が見学
- 89) 2012年10月19日 川崎市総務委員会議員団25名が見学
- 90) 2012年10月24日 川崎市山崎課長、神奈川新聞メディアツアー18名が見学
- 91) 2012年10月24日 川崎市新人職員10名が見学
- 92) 2012年10月25日 国土交通省土地鑑定委員会、川崎市小林室長ら25名が視察
- 93) 2012年10月26日 神奈川県政策局総合政策部、佐久間部長地域政策部地域政策課杉山副主幹、川崎市中尾氏ら4名が見学
- 94) 2012年10月29日 韓国玄先生 (KBIO) ら3名が見学

- 95) 2012年11月2日 フェニックスバイオ蔵本氏ら3名が見学
- 96) 2012年11月9日 宮前区「川崎の歴史と文化を識る会」会員50名が見学
- 97) 2012年11月12日 大正製薬株式会社医薬動態・安全性研究所安全性研堤室長、川崎市玉井氏ら6名が見学
- 98) 2012年11月15日 NTT神奈川支店及び川崎市総合企画局都市経営部20名が見学
- 99) 2012年11月16日 神奈川県工業会の細川氏ら38名が見学
- 100) 2012年11月19日 阪大、大林組、千代田テクノエースから9名が見学
- 101) 2012年11月21日 川崎市プレスツアー23名が見学
- 102) 2012年11月22日 「新・川崎元気企業」川崎市経済労働局産業振興部創造のもり田辺聡担当課長ら3名が見学
- 103) 2012年11月28日 宮前区地域教育会議委員26名が見学
- 104) 2012年11月27日 日本経済新聞 東京支局科学技術部山本氏が取材のため来所
- 105) 2012年12月11日 内閣官房 地域活性化統合事務局加藤局長、川崎市齋藤副市长ら13名が視察
- 106) 2012年12月13日 積水メディカル株式会社二宮氏が見学
- 107) 2012年12月17日 イナリサーチ㈱から3名が見学
- 108) 2012年12月25日 鳥取県 岡村商工労部長ら8名が視察
- 109) 2012年12月27日 朝日新聞、佐藤氏が取材のため来所
- 110) 2013年1月9日 経産省 産業技術環境局佐藤文一大学連携推進課長ら8名が視察
- 111) 2013年1月17日 宮崎大学、中国青海大学の方々20名が見学
- 112) 2013年1月18日 大田区議（総務財務委員会）の方約10名が視察
- 113) 2013年1月23日 環境副大臣 田中氏来所（鍵山先生伊藤守）3名が視察
- 114) 2013年1月24日 電気通信大学牧教授ら5名が見学
- 115) 2013年1月29日 ジョンソン&ジョンソン㈱高瀬氏ら4名が見学
- 115) 2013年2月6日 神奈川新聞記者ら2名が取材のため来所
- 116) 2013年2月13日 経産省佐藤課長ら6名が視察
- 117) 2013年2月22日 朝日新聞記者が取材のため来所
- 118) 2013年3月5日 持田製薬㈱3名が来所
- 119) 2013年3月8日 公明党神奈川県議ら7名が視察
- 120) 2013年3月14日 若宮神宮中村氏ら9名が来所
- 121) 2013年3月18日 川崎市中小企業経営者来所（三浦副市长山崎課長）19名が視察
- 122) 2013年3月19日 EC/吉岡氏来所+川崎市/高橋・大山両課長3名が視察

- 123) 2013年3月26日 共産党佐野議員+市民の方30名が視察
- 124) 2013年3月26日 医療タイムス社記者が取材のため来所
- 125) 2013年3月28日 日本チャールズリーバー(株)社長小林氏が見学

b. 海外からの来訪者

- 1) 2012年4月2日 インドネシア Bio Farma 社4名が研究所を見学。
- 2) 2012年5月8日 タイ マヒドン大学総長ら5名が研究所を見学
- 3) 2012年5月21日 韓国 KBI0 研究所玄先生ら3名が見学
- 4) 2012年7月9日 サムスン医療院の Kim Sung-Joo 博士ら4名が見学
- 5) 2012年7月18日 韓国 KBI0 玄先生ら2名が視察
- 6) 2012年11月27日 韓国慶尚南道巨濟市戦略事業担当官カン・ヨンホら9名が見学
- 7) 2012年11月30日 Samsung Biomedical Research Institute SEC Senior Engineer Dr. Jinguen Rhee 氏ら4名が見学。
- 8) 2012年12月11日 タイ、マヒドン大学学長、副学長他10名が見学
- 9) 2012年12月20日 東亜製薬(韓国) Dr. Lee ら2名が見学

7. 留学(長期研修)

a. 国内留学(研修)

なし

b. 国内留学(研修)受け入れ

なし

c. 海外留学(研修)

なし

8. 認可・許可・承認に関する事項

- ・平成25年1月4日 : 文部科学省へ放射性同位元素等許可使用廃止届及び許可届出使用者廃止処置計画書を提出し、受理された(野川研究所)。
- ・平成25年1月21日 : 文部科学省から借用物品の使用場所変更届を提出し、受理された(アクアクリン空調システム他20件)。
- ・平成25年2月6日 : 川崎市へ川崎市倍央テクノロジーの適正な利用に関する指針第4条の3の規定に基づく使用等廃止届を提出し、受理された(野川研究所)。
- ・平成25年2月19日 : 文部科学省へ借用物品の処分申請をし、受理された(マーモセット壁掛式水洗ユニット、野川研究所)。

9. 学位取得

伊藤亮二は、平成25年3月に慶應義塾大学大学院医学研究科より医学博士の学位を授与された。

10. 契約に関する事項

なし

11. 寄附金に関する事項

寄付金は、中外製薬株式会社他、6件から合計65,730,000円となった。

川崎市先端産業創出支援助成金事業として平成24年5月2日116,000,000円の助成を受けた。

12. 主務官庁の指示に関する事項

なし

13. 特許権に関する事項

なし

14. 叙勲・受賞に関する事項

野村達次理事長兼所長の死去に当たり、平成10年秋（勲二等瑞宝章叙勲）以降も含め生前の研究活動が、国家及び公共に対する功労が著しいとして、平成25年1月11日に正四位の位階が授与された。同時に天皇陛下から祭綵料も下賜された。これら叙位並びに祭綵料下賜は、平成25年2月13日に文部科学省研究振興局長より遺族（妻野村長子、長男野村龍太）に伝達され、2月15日のお別れの会にて披露された。

15. 職員数

	男	女	計
役員	10	1	11
研究職	32	15	47
事務職	7	8	15
その他	1	0	1
計	50	24	74

	常勤	非常勤	計
役員	3	8	11
研究職	41	5	46
事務職	16	0	16
その他	1	0	1
計	61	13	74

16. その他

野村達次理事長兼所長は、病氣療養中のところ平成25年1月11日心不全により死亡した。近親者による家族葬が1月15日（通夜）、1月16日（告別式）に行われた。また2月15日にはお別れの会（研究所葬）が帝国ホテル富士の間にてしめやかに執り行われ、約700名に及ぶ参列者があった。

なお理事長代行は、定款28条により野村龍太専務理事が務め、1月22日に開催された臨時理事会において新理事長に野村龍太専務理事が推薦され、承認された。

寄付金は、中外製薬株式会社他、6件から合計65,730,000円となった。
川崎市先端産業創出支援助成金事業として平成24年5月2日116,000,000円の助成を受けた。

12. 主務官庁の指示に関する事項

なし

13. 特許権に関する事項

なし

14. 叙勲・受賞に関する事項

野村達次理事長兼所長の死去に当たり、平成10年秋（勲二等瑞宝章叙勲）以降も含め生前の研究活動が、国家及び公共に対する功労が著しいとして、平成25年1月11日に正四位の位階が授与された。同時に天皇陛下から祭叢料も下賜された。これら叙位並びに祭叢料下賜は、平成25年2月13日に文部科学省研究振興局長より遺族（妻野村長子、長男野村龍太）に伝達され、2月15日のお別れの会にて披露された。

15. 職員数

	男	女	計
役員	10	1	11
研究職	32	15	47
事務職	7	8	15
その他	1	0	1
計	50	24	74

	常勤	非常勤	計
役員	3	8	11
研究職	41	5	46
事務職	16	0	16
その他	1	0	1
計	61	13	74

16. その他

野村達次理事長兼所長は、病気療養中のところ平成25年1月11日心不全により死亡した。近親者による家族葬が1月15日（通夜）、1月16日（告別式）に行われた。また2月15日にはお別れの会（研究所葬）が帝国ホテル富士の間にてしめやかに執り行われ、約700名に及ぶ参列者があった。

なお理事長代行は、定款 28 条により野村龍太専務理事が務め、1 月 22 日に開催された臨時理事会において新理事長に野村龍太専務理事が推薦され、承認された。

公益財団法人実験動物中央研究所
維持会員制度

定例会議ならびに学術懇話会

第31回維持会員定例会議ならびに学術懇話会を7月26日（金）に、学士会館にて開催した。

プログラム

1. 定例会議（13:30～14:15）

開会挨拶 : 野村龍太専務理事
研究概要報告 : 伊藤守研究部門長
事業概要報告 : 高倉彰サービス部門長
収支報告 : 高倉彰サービス部門長

2. 話題提供（14:30～15:30）

- ① 新施設におけるマーモセット共同研究体制の紹介 : 伊藤豊志雄マーモセット研究部長
- ② 動物愛護管理法における実験動物の立ち位置 : 鍵山直子公益担当理事

3. 学術懇話会（15:45～16:45）

【特別講演】

「ヒトへの予測性の向上を目指した実中研との共同研究への期待」

大野 泰雄（国立医薬品食品衛生研究所所長）

4. 懇親会（17:00～18:45）

維持会員に関する業務

1. ヒト悪性腫瘍分与：	3社	8件
2. 教育研修：	3社	3件
3. 見学：	20社	26件
4. 微生物モニタリング・疾病診断：	25社	659件

平成 24 年度 微生物モニタリング・疾病診断検査内訳

動物種	動物数	血清数	その他	合計
マウス	1,075	834	239	2,148
ラット	388	759	8	1,155
ハムスター類	8	0	0	8
モルモット	37	12	78	127
ウサギ	2	7	32	41
その他	0	0	58	58
培養細胞等	—	—	748	748
合計	1,510	1,612	1,163	4,285

5. 遺伝的モニタリング・遺伝検査：	2社	5件
--------------------	----	----

平成 24 年度 遺伝モニタリング・遺伝検査内訳

検査項目	依頼件数	検体数
遺伝モニタリング	3	16
染色体数検査	0	0
遺伝子マッピング	0	0
スピードコンジェニック	2	33
合計	5	49

維持会員等出前サービス

- 1) 鍵山直子. 動物実験の自主管理と外部検証. A社, 6月26日
- 2) 鍵山直子. ILAR 指針は AAALAC の評価基準. B社, 7月10日
- 3) 鍵山直子. ILAR 指針の改訂ポイント. C社 a, 7月13日
- 4) 鍵山直子. ILAR 指針の改訂ポイント. C社 b, 8月31日
- 5) 鍵山直子. 今、なぜ第三者認証が製薬会社に求められるのか. D社 a, 9月11日
- 6) 鍵山直子. なぜ、私たちは AAALAC の認証を目指すのか. E社, 10月23日

- 7) 鍵山直子. 動物実験におけるハーム・ベネフィットの考え方と実際. F社, 10月25日
- 8) 鍵山直子. 第三者認証は動物実験の自主管理を担保する. D社b, 3月5日

公益財団法人実験動物中央研究所 維持会員規約

2010年7月28日改訂

第一条 (目的)

公益財団法人実験動物中央研究所(以下、実中研という)は、その事業すなわち、実験動物の開発・改良、動物実験の質的向上、標準化と合理化ならびに臨床医学の発展および新薬の開発に直接結びつくモデル動物の開発等に対する財政的援助を受けることを目的として、実験動物中央研究所維持会員(以下、維持会員という)の制度を設ける。

第二条 (維持会員の資格)

1. 第一条の目的に賛同した法人で、所定の入会手続きを経て実中研理事会の承認を得たものを維持会員とする。
2. 維持会員は年会費を実験動物中央研究所に納入しなければならない。
年会費は1口100万円、1口以上とする。
3. 退会しようとするときは、その旨を実験動物中央研究所理事会に届け出なければならない。

第三条 (維持会員会費の用途)

維持会員会費は、50%を公費目的事業費に、50%を管理費に使用するものとする。ただし、管理費に充当すべき金額について管理費に充ててなお残余があるときは、公益目的事業費に使用することを可とする。

第四条 (維持会員の特典)

維持会員は、実中研から次に定める利益を優先的に享受することができる。

- イ. 実験動物ならび動物実験に関する情報提供
- ロ. 実験動物の飼育管理、動物実験手技などに関するアドバイス
- ハ. 実験動物の遺伝学的、微生物学的品質モニタリングの実施ならびに関連事項についての情報提供
- ニ. 特殊実験動物の分与
- ホ. ヒト悪性腫瘍株の分与
- ヘ. 飼育技術ならびに動物実験手技についての研修
- ト. 研究開発プロジェクトへの共同研究加入
- チ. 定期的研究報告会への参加

第五条 (顧問の嘱託)

4. 実中研は、維持会員制の適正な運営を図るため、定款第31条に基づき、顧問をおく。
5. 実中研理事会は、維持会員制に関する重要事項については顧問に諮り、その意見を尊重しなければならない。

第六条 (維持会の組織)

6. 維持会員は維持会を組織し、毎年1回、定例会議を開催するものとする。
7. 定例会議は、臨時会議とともに実中研理事長が召集し、議長はその都度、会員の互選で選出する。
8. 会議は維持会員制に関する事項を審議し、その意見を実験動物中央研究所理事会に具申することができる。実中研の理事及び第4条に定める顧問は、会議に出席して意見を述べるができる。
9. 実中研理事会は、維持会員制の運営状況、実中研の研究成果、研究結果に関する報告文書を作成し、定例会議に提出して説明しなければならない。

公益財団法人実験動物中央研究所 維持会員名簿

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

アステラス製薬株式会社	大鵬薬品工業株式会社
アスピオファーマ株式会社	タカラバイオ株式会社
エーザイ株式会社	武田薬品工業株式会社
大塚製薬株式会社	第一三共株式会社
株式会社カネカ	田辺三菱製薬株式会社
株式会社クレハ	中外製薬株式会社
株式会社コーガアイソトープ	日産化学工業株式会社
株式会社ヤクルト本社	日本たばこ産業株式会社
協和発酵キリン株式会社	日本化薬株式会社
塩野義製薬株式会社	Meiji Seika ファルマ株式会社
大正製薬株式会社	わかもと製薬株式会社

計 22 社 (50 音順)